

# 三井家の伝統と中井家の共同企業形態について

## ——江戸時代に活躍した商家(3)——

幾石致夫

〈目次〉 まえがき

I 三井家の場合

- 1 三井高利をめぐる江戸商法
- 2 高利の経営理念
- 3 家をベーシックに考える論理
- 4 高利死後の三井同族団と三井財閥

II 近江商人について

- 1 代表・中井家の創業とその発展
- 2 中井家の経営活動の特長
- 3 財務管理と家法
- 4 近江商人の活躍さまざま

## まえがき

江戸時代に活躍した商家としてすでに本誌では筆者は鴻池家と住友家について夫々第1巻1・2号で不十分ながらいささか検討を試みたのであるが、今回は住友家と同様に今日でも日本経済を牛耳るビッグ経済グループの一つに数えられる江戸時代における大商家であった三井家ならびに近江出身の商人たちの中で中井家を中心にしアプローチを試みることにした。

アプローチの角度はいろいろあろうが、今回は財閥との関係では三井家並びに中井家の業績を経営史的に眺めることにする。

## I 三井家の場合——財閥経営と江戸時代の番頭政治の類似点と相違点——

見方によっては三井とか住友の事業の発祥は江戸時代、あるいはそれ以前にさかのぼることができるし、しかも彼らは現在も日本は勿論のこと世界的にその大きな経済力を広げているということができよう。一方、確かに財閥といわれる商社は過去からのものを受け継いではいるが、その形態といい、在り方はすっかり過去のものから脱皮して質的に異なっているのであるから、その発祥を江戸時代に求めるのは無理であるという意見もある。勿論その通りであり、恐らく事業の発祥を歴史的に遠くに求めている人でもまさか、財閥資本が江戸時代に創設されたのだという学者は1人もいまい。しかし、事業経営の在り方が本質的に変化してしまったかどうかはいささか疑問とせざるを得ないし、そうした事実にしばしばぶつかることがある。たとえば、明治に入ってから、江戸時代の大商家にあったいわゆる別家制度は一般的には見出し得ないことになっておるが、根本からその制度が廃止されたわけでもないようである。

あるいは株式会社という近代的組織をとってはいても、大会社でありながら同族会社と同じようなやり方をしている場合もある。

日本の大商家では主人は支配人に経営権を委譲しているのであり、主人は重要な決定に対してのみ最終的に承諾を与えるだけだという。つまり主人は君臨

するが統治はせずということになるのであろうか。

同じ番頭政治といいながら明治以降のものと江戸時代のそれとは本質的に異なるという意見もある。確かに明治以降の番頭といわれる支配人たちは、大学、専門学校などの最高学府の出身者あるいは海外留学経験者、もと高級官吏といった具合で、高い見識をもっている人々が多くおり、江戸時代の番頭と比べて、企業(ここでは財閥会社)に対してその地位は相対的に高いということができよう。それにしても経営の無限的委譲という点では明治以降のそれと江戸時代の番頭政治とでは極めて似ているものがあるといえよう。それは似ているということであり全く同一ということではない。常識的に考えて旧社会のものが資本主義社会の新社会にそのまま残るといことは在り得ないのであり、多少とも手を加えて修正して利用するところもあるということであろう。問題は旧社会の制度をいかに変えて、新社会で利用するかということであろう。

人間関係については近世においては主従関係が極めて重要な社会の秩序であったが、民法以降でこの関係は法律的に認められていないのであるが、現実には、雇用関係、師弟関係においてはこの主従関係の色彩を色濃く残しているといえる。たとえば財閥会社の三井、住友などではその家長に対する重役といわれる人々の態度にこの主従関係が投影されている。これらのことは旧社会の秩序が新社会にそのまま通用することを意味するのではなく、つぎの社会で利用できるものは上手に修正を加えて利用しているのだということであろう。

古いものをそのまま利用しようとすれば、そのことはそのまま没落への道を意味するものであろう。

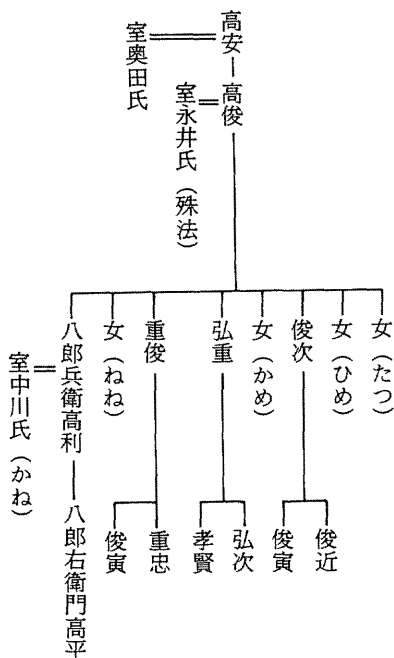
## 1 三井高利をめぐる江戸商法

三井家の元祖といえど誰でも高利をあげるであろう。彼は現在の三越百貨店の前身である越後屋呉服店や三井銀行の前身と目される三井兩替店を創設し、三井財閥の土台を築いたという事実にも誰も疑いをはさむものはいまい。彼は70年の生涯を通じて、店前売り、薄利多売、切売などのいわば近代的商法をはじめたのである。彼は日本の商業史に画期をもたらしたいわば江戸商法の創始者といえることができる。

彼は元和8年に伊勢松坂に生まれた。物の本によれば、三井家の祖先は平安時代の公家であったという。中世には武家となって、のちに佐々木家に属し、一小大名になったが、佐々木家が織田信長に滅ぼされると、三井高安(高利の祖父)は伊勢の松坂にのがれた。高利の父は松坂本町で質屋をしながら酒や味噌のあきないをおこなったようである。むしろ高利の母なる人殊法は、国守北富家の御用をつとめていた豪商角屋永井佐兵衛の娘で、卓越した企業者精神と企業者能力をもつ女丈夫であったといわれる。

高利が出生した元和の時代(1615~23年)は、徳川幕藩体制がいまだ十分に確立されておらず、世相は乱れ、人びとは非常な不安のなかで生活していた。同年の5月から8月は、大旱・凶作であり、京都に大火があり、盗賊も絶えなかった。このような世相を反映して、諸国に伊勢踊が大いに流行した。とくに感受

図1 三井家略系図



## 三井高利の略年譜

|            |       |   |
|------------|-------|---|
| 1622(元和8)年 | 高利1歳  | 伊勢松坂に生まれる   |
| 33(寛永10)年  | 〃 12歳 | 父高俊他界す  |
| 35(寛永12)年  | 〃 14歳 | 江戸に出、長兄俊次の店を手伝う                                     |
| 49(慶安2)年   | 〃 28歳 | 松坂に戻り母殊法の世話をするとともに、中川清右衛門の長女かねと結婚す                  |
| 67(寛文7)年   | 〃 46歳 | 長男高平(15歳)、翌年次男高富(15)歳、江戸に出、長兄俊次の店を手伝う               |
| 72(〃 12)年  | 〃 51歳 | 金融業、とくに大名貸・郷貸を専らとす                                  |
| 73(延宝元)年   | 〃 52歳 | 長兄俊次他界後、江戸本町1丁目に呉服店を開業す                             |
| 75(〃 3)年   | 〃 54歳 | 革新的な店前売を開始する  |
| 76(〃 4)年   | 〃 55歳 | 母殊法他界す  |
| 80(〃 8)年   | 〃 59歳 | 江戸駿河町にて両替業を営む、このころ、江戸呉服屋仲間の妨害多し                     |
| 83(天和3)年   | 〃 62歳 | 江戸本町1丁目から駿河町に呉服店を移すとともに、薄利多売・現銀掛値なしの商法により本格的な革新に着手す |
| 86(貞享3)年   | 〃 65歳 | 本拠を松坂から京都に移し、全事業を総括する体制に入る                          |
| 89(元禄2)年   | 〃 68歳 | 江戸両替店本両替仲間に加わり、元方御納戸御用達となる                          |
| 91(〃 4)年   | 〃 70歳 | 金銀御為替御用達となる   |
| 94(〃 7)年   | 〃 73歳 | 高利、遺書により同族の割歩を定めた後、他界す                              |

性の鋭い人間は世をうとんじて隠遁の生活に逃げるという傾向(退嬰主義)か、それとも、神仏にすがってひたすらに現実の生活や職業をまっとうしようとする傾向(世俗内禁欲主義)のいずれかであった。高利の両親もまた、その例外ではなかった。

父高俊が風雅な道にうつつをぬかし、過去の夢をむさぼる退嬰的な人物であったのに対し、母殊法は神仏に対する神心が異常なまでに厚く禁欲的な生活を重んじた人物であり、このような両親の対極的な生活態度が、その子供たち、とくに感受性が鋭いといわれた高利に、決定的な影響を与えた。高利はすぐれ

マージナル  
て境域的な幼少年時代を送らねばならなかった。

高俊と殊法の間には、男子4人・女子4人の子供があり、高利はその末子であった。父は高利が12歳のとき他界し、母は高利が55歳のとき他界した。

高利の兄に、俊次・弘重・重俊があった。高俊と殊法の、各々の生活態度が末子高利に大きな影響を与えた。父高俊は、身分的価値をはく奪され遁世的瞑想にふける零落した武家の末裔の典型であり、母殊法は、「毎日寒中にも朝七ツに起き、水をあび、それより神仏に祈り……」のような世俗内禁欲主義者の典型であった。したがって、高利の内面には強い葛<sup>コンフリクト</sup>藤が培養されたのである。

母殊法からの影響のみでは、革新者高利が生まれなかった。第一級の革新は、そういう殊法の宗教的で模範的な生活態度を突き破ったところに生まれる。

両親により与えられたマージナルな生の方向を、高利は、(1)集中的な企業者活動への没入、(2)「江戸店持ち京<sup>え</sup>商人<sup>ど</sup>」として独立したいという明確な志向性、(3)長兄俊次に代わるものとしての家系維持者としての強烈な役割意識、(4)時代をのりこえた合理性への志向、へもっていったのである。

高利が初めて江戸へ下ったのは、1635(寛永12)年のことである。彼は、手代奉公として長兄俊次の江戸店を手伝うためであった。その間、高利は種々の理由のもとで江戸、松坂間を行ったり来たりしたが、彼は兄との関係もあまりよくなく、寧ろ高利は三井家を積極的に負って立たねばならない立場になっていったのである。高利は、母の生活態度を忠実に守り事業の強力な推進者となった。彼は松坂で金融業を始め、大名貸や郷貸を盛んにおこなった。この経験がのちの両替店の経営能力の土台となったのである。高利の革新性が明らかになるのは、兄の死後、江戸店の開業後である。兄の死により高利は、名実ともに三井家の大黒柱となり、ときに高利は52歳、江戸を追われて二十数年後の夏の盛りであった。

## 2 高利の経営理念

江戸店開業までの二十数年の間に、高利は9男4女をもうけた。

高利が1673(延宝元)年8月に江戸本町1丁目に開いた呉服店の越後屋は、間口9尺の借店で、使用人は10人たらずという小規模なものであった(三越の前

身)。多数の老舗が立ち並んでいる本町通の呉服店のなかで頭角を現わすのには、従来通りの伝統的な商法をあらためて、革新的・逸脱的な商法を創出する必要があった。しかしそれはへたをすれば倒産するかも知れない。だが、いつまでも反物類を毎日もち歩いて行商していたのでは飛躍的な上昇を望めないと判断した高利は、諸国商人売や店前売<sup>みせききうり</sup>という独創的な商法を創始した。これは、当時の一流の呉服店のルーチー<sup>ルチー</sup>的な商法を一新するやり方であった。

すなわち、諸国の諸々の商人にたいして卸売りをおこなうことである。単位当たりの利潤は薄くなるが取引量は多くなり、商品を速やかに処分することができた。また店前売とは、店先で小売業をおこない、その取引をすべて現金売買とすることにより、従来のルーチー<sup>ルチー</sup>的な商法につきまとっていた多くのリスクや矛盾を一掃することを大きなねらいとしていた。高利はこれとともに呉服物の切売も始めている。

店前売などは、場末の小店舗がおこなうものであり、本町通の老舗がおこなうべきものではないという固定観念を突き破ったところに大きな意義がある。

高利が創始した新商法は、当時新しく台頭しつつあった町人層の需要にたいして、すぐれて適的な要素を含んでいたから、まさに時流の波に乗るものであった。利益を薄くして品物を多く売り、全体としての利益をあげるという、今日では全く常識的な商法が、当時の同業者たちにとっては一大脅威であったのである。彼の新しい営業方式が極めて合理的であるという理由で同業者の間でもこの新しいやり方をまねるものが多くできた。その理由は効率性にあることはいうまでもないが、その他につぎのように家の没落の恐怖の問題もあったようである。すなわち、本町通の大呉服店 17 軒は 1735(享保 20)年にはその約半数の店舗が現実に没落した。

高利を革新に駆り立てたのは、心的葛藤を原動力とする自己実現欲求であり、また、その欲求に方向性を与えた独立への強い願望であった。仲間はずしになりながらもよくこれに耐えたのは、高利に固有の「家」意識によるところが大きいといわれる。高利の死後に作成された『町人考見録』は、「家」没落の恐怖感にもとづいて書かれたといってもけっして過言ではない。

彼にとっても「家」を没落にみちびくものは、たとえ宗教であろうと否定さ

れねばならなかった。「商人にかぎらず、儒仏両道に心得、一向仏道にかたより候へば、家危うく成候事」(『商賈記』)とある。高利の場合、このような「家」意識が幼少年時代から過酷な生の状況を自己形成・自己鍛練の過程としてとらえなおした確固たる信念をその基礎に持っていた。彼はそのためにさまざまな社会的圧力から「家」を守ることができたのである。彼は家を得ることが事業の経営の基本にあったことを忘れてはならない。

### 3 家をベーシックに考える論理

高利が本格的現代経営にふみきったのは、駿河町に店舗を構えてからであり、薄利多売の方針の合理化をめざすものであった。呉服物の切売(小切れ販売)・「一人一色の役目」(店内分業制)・迅速な仕立販売などの革新的要素がもりこまれていたから、越後屋の売上高は飛躍的に上昇した。1687(貞享4)年には幕府弘方御納戸呉服御用を、1692(元禄4)年には、為替御用を命ぜられた。

越後屋の経営理念は高利の学問と宗教により自己を鍛えることを出発点としており、彼は知識人としても革新者であった。

高利はたとえそれが神道であり儒教であり仏教であっても、これに偏ることは「家」を没落にみちびく可能性があると考えていた。「仏神を敬ひ、儒学を心掛候事、人道に候。然れ共いづれにても、過ぎ候へば其身の家業おこたり、おのづと異形の人の様に罷成候」して「家」をつぶしてしまうと人びとにたいする鋭い批判がみられる。批判の対象となったのは、けっして三井の「家」に無関係な人びとのみではなく、「家」永続の規範から逸脱する者を、「異形の人」として徹底的に排斥した。当時の社会的風潮にてらして考えるならば、「家」永続のための厳しい自己規律・自己鍛練を「家」の成員に要求することは、きわめて、革新的な倫理的な規範の確立をめざすことを意味していた。

高利の「家」観念は、1671(寛文11)年に、高利と同じく伊勢において生まれ、13歳のとき江戸に出て、高利と同じく呉服商の丁稚奉公からたたきあげて1代で産をなした伊藤伊兵衛身禄の思想を先取りしたものといえる。

彼も偉大な商人であったが、商人としての後世への影響は高利の方がはるかに大きく、思想的にもはるかに大きかった。山岳浄土観・ミロク観・即身成仏



観などを統合した立場から勤勉・儉約・善行・正直・孝行などの倫理道徳を主張した身禄がもっとも重視したのが、真面目な態度で家業に出精することであった。

高利は「宗竺遺書」において、「外の事に気を移し、代々家職疎略に致候事、仏神の妙(冥)慮に叶ふべき哉。又仏神の為に、金銀財宝をなげ打、莫大のつゐへ致候事大<sup>き</sup>成<sup>ひ</sup>非<sup>が</sup>事と候」としている。退嬰化しつつあった既成宗教の墮落の原因である呪術的権威と御利益信仰を鋭く批判した。このような高利の宗教観が、「はたらきわ<sup>(働きは)</sup>よる<sup>(夜)</sup>ひる<sup>(昼)</sup>、めんめんのそなはりたるかしよくして、<sup>(四民)</sup>しみんのうちゑいり、人おばかさぬようにとの御伝へなり」、「其出行(寺社参詣)より先今日の務方家業の道大切なり」、「かせぎ働く内に助る信心お能々開き可<sup>レ</sup>聞也」、といった身禄の遺訓(井野辺茂雄『富士の信仰』、「三十一日の御巻」『民衆宗教の思想』)よりも数十年も早く成立していたという事実は、いったいなにを意味するのか。このような身禄の金銭観はけっして彼の独創によるものではなかった。すでに高利が、身禄ほど明確な意識をもっていなかったにしろ、当時の貨幣経済の進展を正しく理解し、金融業という賤視されていた業態を元禄期の新しい経済体制下においてもっとも将来性のあるものと考え、「町人は商売それぞれ分るといへども、先は金銀の利足にかゝるより他なし」(『町人考見禄』)とし、銀<sup>ぎんもうけ</sup>儲は商人の職分であると自覚され、「商売人の入払の出入」は天道(『商買記』)とみるにいたるのちの三井の人びとの経営理念の精神的礎石を築いていたのである。

高利の経営理念はそれほど体系化されたものではなかった。だが、主観的にも客観的にもすぐれて合理的な要素を多分に含んでいたことが、身禄の富士講により立証された。高利の思想と共通点が多かった身禄の富士講は、元禄・享保時代にいたり、三都の町人社会から各地へ普及していったのである。三井家が「宗竺遺書」を定め、『家伝記』や『商買記』を同族に示し、『町人考見禄』の編纂に着手し、高利が創始した商家経営の体系化と合理化をめざすにいたるのも、享保時代からである。しかし、さほどの発展はなかった。それは、たとえば『町人考見禄』に「商人は賢者に成りては家衰ふ……一日も仁義を離れては人にあらず。然りとて算用なしに慈悲を施こす、愚かや。仁義を守り軍師の

士卒を遣ふが如く、商ひに利ある様に心得べし」とある様に、「仁義」と「利」との折衷論にもとづく「家」の極端な重視があまりにも前面に出すぎたため、享保時代の新しい波に翻弄<sup>ほんろう</sup>されつつあった人びとの内面を根底からとらえることができなかったからである。この間隙<sup>かんげき</sup>をぬって出現したのが、石田梅岩の「心学」であった。梅岩はこの折衷論をのりこえることができた。

高利の考えは梅岩の考えと大きな共通点をもっている。梅岩は倫理道德の真摯な実践による自己形成・自己鍛練を通して確固たる主体性を確立することを至高のものとした。これほど明確な意識をもっていなかったが、高利もまた、倫理道德の実践を重視したのである。たとえば、「延宝の式目」(1673年)は、店員が遊里に出入りしたり賭博にうつつをぬかすことを厳禁しているし、「上天子より下万民に至る迄、其身之つとめ第一之事に候」(「家内式法帳」)として勤勉を重視し、倹約をすすめた。このように世俗内禁欲主義を徹底していくと、呪術的権威や御利益信仰は後退せざるをえない。これは、手代の分業制や複式簿記の考案などの形で顕在化した。このような高利の合理性がその境域的な生育環境と密接な関係にあることはいうまでもない。生活態度と価値観において全く異質の両親に育てられたことである。つまり高利は父により代表される遁世的瞑想の世界からは抽象能力を、母により代表されるピューリタンの禁欲主義の世界からは自己規制にもとづく生活態度を、それぞれくみとり、これを合理主義的な方法で組織化へと弁証法的に統合したのである。そのさい、父の世界からは、退嬰主義的要素が、母の世界からは、盲目的狂信的要素が、それぞれ切って捨てられた。

高利の合理性は、松坂と江戸と京都を結ぶ三角点の往復による広域志向性の増大にも関連している。また、高利が育った松坂が伊勢神宮の御師<sup>おし</sup>の根拠地であったことや松坂町人には近江商人(とくに日野商人)が多かったことも注目してもよい。

#### 4 高利死後の三井同族団と三井財閥

高利の死はカリスマ的な指導者の死を意味した。長男高平(42歳)・次男高富(41歳)・三男高治(38歳)・四男高伴(37歳)らは、高利の死後を兄弟の強い連帯

にもとづく準拠集団の形成により高利の死をのりきろうとした。彼らのそれまでの準拠人が消滅したので、新しい準拠集団を求めたのである。その結果生まれたのが三井同族団であった。

三井同族団は、高利の経営哲学を具体化したものとも、貨幣改鑄などによる経済変動への対応策が具体化したものとも解釈できる。重要なのは高利が長年経験した複雑な「家」の事情にまつわる経験を息子たちが生かそうとした点である。兄弟一致の家法(精神)が非常に重視されている。

高利はまさにそのような複雑な「家」の事情のなかからはい上がってきたことである。

「家」の特殊性に着目しないかぎり、高利の革新性がなぜ高利に固有のものであるかを解明できないかも知れない。日本における革新は「家」というフィルターを通して顕在化するものであり、「家」を無視した革新の研究は全く意味がないといえよう。

高利以下の三井の後継者はおしなべて「守成の人」が多かったという。

いわゆる三井財閥系会社として両替、商社、鉱山、造船、繊維工学、等々と列挙にいとまがないが、もちろん現代的な形態でそれぞれが明治初頭から存在していたわけではないのであるが、それぞれの企業は多かれ少なかれ当時の明治政府の強力な援助のもとに、とくに当時の陸軍、海軍の力によるところが大きかったのである。それぞれの企業へ三井本家から総頭取、総取締という有力な人材が配置されていたわけである。その例を三井物産について見るならば夫々の会社の総頭取あるいは総取締という形で三井本家(三井財団)から派けられ、三井八郎左エ門、や三野村利左エ門が三井物産の草分け的存在の役割をしたことは有名な話であり、彼らのすいせんで、井上馨、大久保利通、松方正義、大隅重信の諒解を得て、三井物産の初代社長(益田孝)が、明治9(1876)年に決まったのである。要するに三井本家がここで主力を演じたことが分かるのであるが、それは何も三井物産に限ったわけではなく三井関係の各企業については三井物産と同様に三井本家の果たした役割は重大といわざるを得ない。ここに三井高利の精神を明治になっても、よみとることができるのである。

## 〔参考文献〕

- 作道洋太郎「近世における為替手形の発達」(『大阪大学経済学』第8巻第1号, 1958年)
- 中田易直『三井高利』吉川弘文館, 1959年
- 土屋喬雄『日本経営理念史』日本経済新聞社, 1964年
- 安岡重明『財閥形成史の研究』ミネルヴァ書房, 1970年
- 宮田登『近世の流行神』評論社, 1972年
- 安丸良夫『日本の近代化と民衆思想』青木書店, 1974年
- 安岡重明「財閥形成の文化的・社会的背景」(『経営史学』第10巻第1号, 1975年)
- 瀬岡誠「渋沢栄一における革新性の形成過程」(『大阪大学経済学』第26巻第1・2号 1976年)
- 『挑戦と創造——三井物産100年のあゆみ——』発行・三井物産株式会社, 編集・財日本経営史研究所
- 作道洋太郎・宮本又郎・畠山秀樹・瀬岡誠・水原正享『江戸期商人の革新的行動——日本の経営のルーツ——』有斐閣新書, 1978年

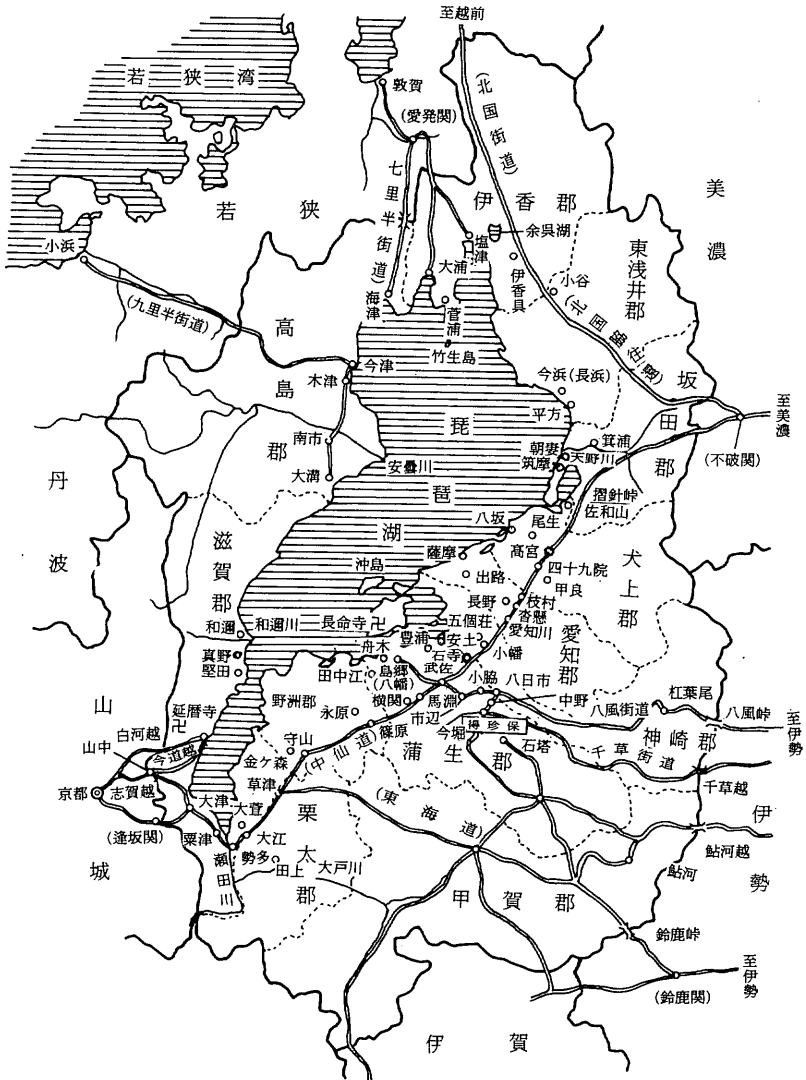
## II 近江商人について

本章では近江商人の定型ともいわれている中井源左エ門を始祖とする中井家の近江商人的活躍にその焦点を見ることにする。

はじめに近江商人の起源についていささかふれることにしよう。その源をさかのぼれば、鎌倉時代ともいわれている。室町時代末期までの近江商人の活動は、越前、若松、京都、美濃、伊勢方面までに及んでいたようである。その昔、荘園から京都・奈良・大阪への貢租米。塩・海産物などが送られていたが、中世になるとそれらは敦賀・小浜から琵琶湖岸の塩津・海津・今津を経て、京都大阪方面へ輸送されるようになりその搬入、荷捌きは近江商人の手によっていた。又美濃方面については、中仙道沿いの愛知群枝村の近江商人が美濃紙を仕入れ、主として京都で販売したようだ。又伊勢方面については、北伊勢方面よりは、布、紙、塩、わかめなどの海産物を仕入れて、近江、京都方面で販売したようである。

この時代の行商は集団を組んで遠距離間の輸送を行い山賊、野盗の襲げきを

図2 中世近江商業地図



(出所) 江頭恒治『江州商人』10ページより引用。

防いだようである。たとえば、1468(応仁2)年の長距離輸送に当たっては、荷を運んだもの100人、護衛60~70人という具合である。後刻、織豊時代になり、治安が確保されるようになると中世の集団行商からいわゆる「天秤棒」の個人行商になり、その行動範囲も拡大されるようになった。

近江地方の城主の転封に当たり、近江商人も会津地方に移住したものもあり、あるものは秀吉、信長の朱印船貿易に刺激され北海道、あるいは九州地方に進出するようになった。勿論秀吉の朱印船貿易に従い、海外貿易に参加したものも多数あったようである。北海道地方に行ったものの中には、択捉島での場所請負を行ったものもある。

南方へ進出した近江商人としては西村太右エ門、岡地勘兵衛の2人は著名であるが、海外へ進出したが、後の幕府の鎖国政策により、海外での活躍の場を失い祖国へもかえれなくなったものも近江商人の中には数多くいたといわれている。

いづれにしても、幕府の鎖国政策以前から、近江商人の活躍は眼を見張るものがあったが、その起源については、たとえば、帰化人説、武士起源説、農民起源説、市店説、交通要衝説、帝都接近説、湖上移動習性説、廃城奪起説、農民生活困窮説等々とその説は色々といわれている。近江商人の中で八幡商人、日野商人などはこれらの説にあるいは当てはまるかもしれない。物の本によれば、近江商人の中で関東から東北にかけて進出したものが最も多いようである。その中でも八幡商人の活躍が最も古いといわれており、たとえば彼らは1615~43年にはすでに江戸日本橋に軒をならべていたようである。彼らは商いとしては、麻布、蚊帳、畳表を中心に、数珠、燈心、蠟燭、扇子などをあついていた。のちには京都、大阪、名古屋、備後福山、長崎等にも進出したようである。日野商人は八幡商人よりその進出はややおけているようだが、その規模も比較的にかさいものが多かったようだ。商品としては日野椀、漆器、合薬、茶、呉服、太物、近江麻布が主なものであった。明治後期から大正にかけても、多数輩出し、有名などころでは伊藤忠兵衛、堤惣兵衛、弘世助三郎などをあげることができる。

彼らの商法は天秤棒一本を担いであるき特産品を日本全国売りあるいたいわ

ゆる「持下り商内」といわれるものが、その特徴であった。一方、商内するところでは片や仕入れてもち帰るということで彼らの商法は鋸商法ともいわれた。

この場合、戸別訪問の小売と問屋卸しの二つの方法を同時に行う場合が多く、いわゆる「近江の千両天秤」といわれている。

ある一定の規模に達すると、出店という形をとり行商から店舗経営に移行して行ったのである。さらに物の本によれば近江商人は農村への貸売という形で商品経済を発展させていったといわれる。近江商人は各地に出店を行い、全国的に商品経済を発達せしめたのである。前にも少し触れたが近江商人と一口にいても、実際には出身地別に団体を組織し商売にはげんでいたようである。

近江商人の場合は商品によって運送の方面が決められ、しかもそれらの品物は一つ船によって大量に輸送されるのではなく、荷物を細分化し危険負担の分散をはかって菱垣問屋の廻船などを積極的に利用しており、この場合かならずといってもいいほど問屋を通して搬送が行われていたようだ。当時問屋を通さずに直送する荷物を通り荷とし不当な商品とされていた。

北海道・山形・米沢方面から大阪方面へ輸送される物資は登(のぼり)荷物と交換が行われており、これらの商品の流通、交換を大きく取り扱っていたものは近江商人の中でも、とくに日野商人でありその中でここで取り扱う中井家が大规模になっていたようである。

また近江商人は単に商品の流通を行っていたのみならず、大名貸、質屋などの金融業も片や営んでいたようである。そのほかに工業の生産・販売も大きく扱っていたようである。また彼らのうちには醸造業をやっていたものが数多くいたようだが彼らは貸金の担保物として酒造器具をおさえた結果生産を行うようになった経緯がある。

一方、北海道方面に進出した近江商人は、その販売商品を古手(古着)、酒、米、塩、味噌、煙草といった生活必需品に絞り、返り荷としては、鰯、鮭、数ノ子、昆布などの海産物を関西方面に運んだ。当時の北海道の松前藩は殆ど農業を行わず、寧ろ現地のアイヌと商品交換を行い生活を立てていたようである。この点、内地の各藩とその経済的生活基盤を異にしていたのであり、近江商人はこの間の事情をわきまえて、場所請負の立場を巧みに利用してその勢力をのばし

ていったようである。いわゆる藩士は商人からの借りで生活をいとなんでいたものが多く、家臣も近江商人に負うところが多かったのである。そのうちに北海道に基地を得た彼らはアイヌを利用し漁業を積極的にいとなみ着々と実績をあげていったのである。北海道での大規模の請負いは択捉島が著名であり、人名をあげれば藤野喜兵衛、西川伝右エ門、岡田八十次等をあげることができる。

さて、ここで説明するまでもなく、江戸時代にあつては三都(大阪、京都、江戸)を中心に城下町では、特権商人が株仲間を形成し、彼らの手によって商品流通経済がとり行われてきたのであるが、18世紀後半から19世紀前半にかけて、在郷商人を中心とする新勢力が特権商人に対抗する勢力として立ちあがり、藩幕体制で商品流通機構を新たに作るようになったのである。彼らは問屋の活躍をはじめたのでここでの近江商人の活躍は目覚ましいものがあったのである。伊藤忠兵衛の店もこの時代にできあがったのである。近江商人中の雄伊藤忠兵衛についていうならば、物の本によれば彼は1842年に近江国犬上郡豊郷村八目の伊藤帳兵衛の次男として生まれたのであるが、本家は「紅長」という屋号で、繊維品の小売商を営んでいたが、彼は幼少時より行商にたずさわったが、1850年祖父の成宮武兵衛と共に本格的に行商をやりだしたのであるが、この時がいまを時めく、伊藤忠、丸紅の創業の年といわれている。

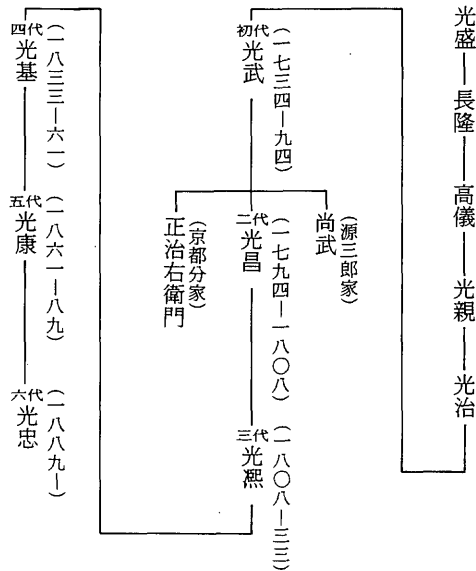
忠兵衛は翌年、広島、岡山を経て、長崎へ行き、当時の外国貿易のいん脈さに眼を見張るものがあり、この事が彼に外国貿易に進出する機縁となったといわれている。1872(明治5)年に大阪で「紅忠」という名称のもとに呉服太物商いを開始し後に外国貿易に進出することになったのである。財務管理法としては利益三割法を活用したのは有名な話である。

## 1 代表：中井家の創業とその発展

中井家は佐々木の家臣として、蒲生郡岡本村に居住していたが、その後1584(元正11)年に日野に移住し、中井と称するようになった。そこで日野塗りの製造販売を相当手広く行うようになったが、1725(享保10)年光治(系図参照)が45歳で死去後、一時、中井家はその家運は急げきに傾いたのであるが中興の祖



図3 中井家の略系図



(出所) 江頭恒治『近江商人中井家の研究』附録2より引用作成。

中井源左エ門光武はこの悲運をのり越えて近江商人を代表するように再興せしめたのである。光武の死後はその子供の清一郎が家をつぎ商人の経験をつましめたという。清一郎は19歳の時に同じ近江の日野商人である相坂半兵衛と共に20両(大部分が借入れ金)を元手に上総方面に行商の旅に出たのである。初めはその行商も成功とはいえなかったようだが、15年間の継続の結果、行商先は上総から安房、武茂、常陸、甲斐、信濃方面にも及び、着々と成果をあげ、雇人も使える状態にまでその営業は進展していったのである。その後、下野に出店を見るようになり扱い商品も繊維品などにも及び20両で出発したのが、775両にその資産も増えていったようである。下野大田原から東北方面へも共同企業という形で進出していったのである。かくて創業35年を迎えた1769(明和6)年にはその資産も7,468両2分まで増殖することになった。

中井家はこの明和6年を機に飛躍的に発展する道を迎えることになったのである。それというのも、この時機を機に仙台、伏見、丹後に常置店舗を設置することになり、いままでの行商方式から店舗販売方式に完全に切り替えることに

### 中井家の略年譜

|             |   |
|-------------|---|
| 1584(天正12)年 | このころ、中井家祖光盛日野に居住す                                 |
| 1716(享保1)年  | 初代中井源左エ門光武生まる                                     |
| 34(享保19)年   | 光武、初めて関東へ合葉の行商に出る、19歳                             |
| 49(寛延2)年    | 光武、下野国大田原に出店開設、34歳                                |
| 69(明和6)年    | 仙台・伏見・後野店を同時に開設し、「産物廻し」の商法を始む                     |
| 82(天明2)年    | 相馬店開設さる   |
| 88(天明8)年    | 伏見店閉鎖、京都店開設さる                                     |
| 96(寛政8)年    | 1766(明和3)年ごろからこのころまでに本支店会計が確立さる                   |
| 1800(寛政12)年 | 仙台藩より苗字帯刀許さる                                      |
| 05(文化2)年    | 正月、家法書「金持商人一枚起請文」完成さる<br>9月、初代光武90歳の生涯を閉ず         |
| 06(文化3)年    | 大坂店、羽前天童店、陸前石巻店、豊後杵築店開設さる                         |
| 13(文化10)年   | 名古屋店開設さる  |
| 37(天保8)年    | 港店閉鎖す。これより1862(文久2)年にかけて石巻店、相馬店、名古屋店、天童店、大阪店が閉鎖さる |
| 49(嘉永2)年    | 京都出店開設さる  |
| 56(安政3)年    | 4代光基、仙台藩の蔵元役を引き受ける                                |
| 89(明治22)年   | 京都店に集中し仙台店閉鎖す                                     |

なったからである。その後、共同企業の形をとり、他人資本を豊富に調達し支店網の拡大を謀ったのである(相馬店、今市店、江戸店など)。一時的ではあったが、仙台店は生糸をあつかい飛躍的に発展し、当店のみの資産で4万9千余両に達したのであった。いずれにしても、店舗販売方式の確立の基礎は、各店を連げる「産物廻し」商法で仕入れを合理的にやったことであるといわれる。産物廻しの内容は生糸、紅花、漆器、輸入薬種でありこの外に中井家は金融業(質屋、大名貸)、製造業(製紙、酒造)などにも多角的にとりくんでいた。

その後、代を重ねるに従って、着々と店舗を開設し、関東、東北一帯を商圏の手中におさめ、その業務内容は先にあげた質のほかに、米、大豆、油、味噌、塩、燈油、古手、綿、帆来綿、南部縄、薬品、ローソクなどあらゆる商品を(生産)・販売したのである。

その後1808(文化5)年までの間にその資産を5万6千余両にまで増殖させて

いる。又 1813(文化 10)年には名古屋に支店を開設しこれを別家として従業員の河原治兵衛にこれをおさめしめ、事実上、名古屋店をして本家の支店の役割を演ぜしめている。

名古屋店開設と年次を同じくして、文化 10 年に出店を見たのが石巻支店の枝店としての港店であるが、これは仙台店との中継基地的役割を果たし貨物の集散を行うと同時に質店を兼営している。三代光熙は、1833 年に 48 歳で死去するまでの 25 年間に中井家の資産を 5 万両から 11 万余両に増殖している。彼は経営の才能を十分に発揮したものといえよう。5 代目の光康は、明治新政府になってから仙台藩への大名貸が返済不能となり、その後明治 10 年に仙台店の大改革を行ったのであるが結局明治 23 年頃に仙台店を整理し、さしも優勢を誇った中井家は三井家の三井八郎左エ門、三野村利左エ門のような人材にめぐまれず、京都店のみに専念するような破目におちいったのである。明治 9 年には神戸に神戸支店を開設し生糸を取り扱ったようだが、その後、わが国は太平洋戦争の拡大によって、中井家は昭和 17 年に完全に廃業のやむなきに立ち到ったのである。

#### 中井家の店舗商業のてんまつ

中井家が行商政策から店舗商業へと転換したのはすでに述べたごとく 1769(明和 6)年のことであった。それは大田原店、白河店、本宮店を経て仙台店を中心に中井家の店舗商業は展開されてゆくのであった。仙台においてはすでに泉州の商人たちの進出を見ていたのであるが、中井家は、いわば後発ということであるが、運営よろしきを得て、幕末には仙台藩の蔵元役を演ずるまでに到ったのである。

仙台店の商法は古手(古着)と繰綿の販売が中心となる。古手の仕入れは大阪、伊勢、名古屋方面であり、繰綿も同様上方及び三河地方の間屋の手を通じて行われ、それ以外のものからの仕入れは直か仕入れとして禁止されていた。中井家はいうまでもなくこの仲間組織の有力会員であったのである。仙台店の商域は当初は主として仙台以南の地域であったようであるが、その後、南部藩の黒沢尻あたりまで進出するようになった。中井家の別家は仙台をのり越えて、共

表1 中井家仙台店の古手・繰綿仕入金額一覧表

| 年次            | 古手仕入金額  | 繰綿仕入金額  | 年次   | 古手仕入金額  | 繰綿仕入金額  |
|---------------|---------|---------|------|---------|---------|
|               | (両以下切捨) | (両以下切捨) |      | (両以下切捨) | (両以下切捨) |
| 1821<br>(文政4) | 6,609両  | 1,505両  | 1844 | 11,436両 | 22,716両 |
| 22            | 8,007   | 4,998   | 45   | 17,044  | 14,531  |
| 23            | 9,299   | 4,287   | 46   | 11,223  | 18,849  |
| 24            | 9,280   | 5,457   | 47   | 5,703   | 24,202  |
| 25            | 8,894   | 6,765   | 48   | 7,541   | 29,021  |
| 26            | 8,412   | 4,310   | 49   | 13,007  | 27,281  |
| 27            | 9,559   | 5,863   | 50   | 16,051  | 16,415  |
| 28            | 10,461  | 5,927   | 51   | 20,717  | 27,726  |
| 29            | 9,106   | 5,561   | 52   | 12,829  | 21,536  |
| 30            | 9,928   | 6,502   | 53   | 10,657  | 11,692  |
| 31            | 10,373  | 6,266   | 54   | 10,172  | 18,497  |
| 32            | 12,413  | 8,206   | 55   | 12,720  | 19,555  |
| 33            | 12,320  | 4,756   | 56   | 11,875  | 6,475   |
| 34            | 10,611  | 7,833   | 57   | 9,508   | 19,421  |
| 35            | 11,367  | 8,078   | 58   | 13,144  | 15,493  |
| 36            | 10,036  | 2,461   | 59   | 7,676   | 6,449   |
| 37            | 5,588   | 1,151   | 60   | 3,872   | 6,136   |
| 38            | 4,492   | 1,421   | 61   | 2,632   | 7,077   |
| 39            | 3,712   | 1,685   | 62   | 14,976  | 19,692  |
| 40            | 3,263   | 4,279   | 63   | 19,269  | 14,109  |
| 41            | 9,415   | 4,327   | 64   | 19,849  | 14,975  |
| 42            | 5,545   | 9,617   | 65   | 19,938  | 43,806  |
| 43            | 7,436   | 14,770  | 66   | 41,158  | 18,093  |
|               |         |         | 67   | 47,650  | 43,537  |

(注) 仕入金額中には、運賃、諸掛り、海上銀を含んでいる。

(出所) 江頭恒治『近江商人中井家の研究』216ページより引用作成。

同企業という形で、南部領から津軽の方まで進出していった。

さらにこの仙台店を軸に相馬中村店、天竜店、石巻店及び夫々の枝店は仙台店を仙台北店と呼びその組織も複雑となり、元方、見世方(小売)も古手方、繰綿方、糸方、質方、木綿方、に分かれ、商売も専門化していったのである。

かくて中井家の資本蓄積も着々と進み、1796(寛政8)年には仙台店の資本は2万4,317両に達した。

### 金融業家としての中井家

金融業は金貸と質屋営業の2部門に分かれるが、大名貸が多くその貸付先は仙台藩を始めとして京都営業店は宮津藩、福知山藩、柏原藩、亀山藩、館林藩、浜松藩などに巨額の貸付を行っていた様である。利潤は平均年1割2分とっており、現在から見ると相当な高利のようである。従って利息収入も可成りと考えられるが幕末には例のごとく不良貸付が多く出ており、中井家の屋台骨をゆるがしてしまったのは鴻池家の場合と同様であった。

片や質屋営業については、ほとんどの店が兼営していたようであり、この場合は間接金融である。すなわち質屋が集めた質札を担保に質屋(取次家)に融通するやり方である。

### その他の中井家の営業活動

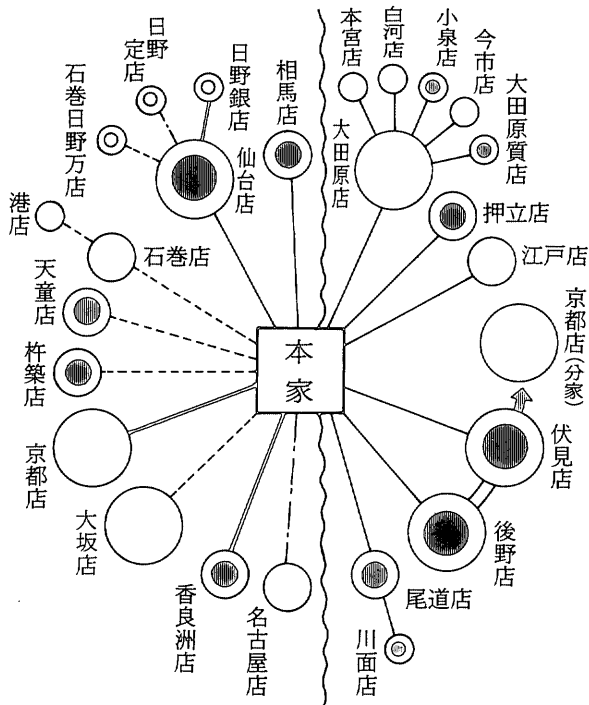
中井家は流通業の外に生産事業にも積極的であり、たとえば豊後の杵築では酒造業を、尾道店では鋳物業と酒造業とを兼営しており、川面店(尾道店の枝店)で酢の醸造をしており、伊勢の香良州店では酒造業をといった具合に生産方面にも各種進出していたようである。外に日野商人に融資・援助を行い、有利と見れば積極的に果敢にとりこんでいたといえる。

仙台藩の蔵元役を引き受けていた同家は東北地方(仙南)の新田開発を積極的にやっていたようでありその面積は合計で80町歩に達していた。開発が完了すると間もなく明治維新を迎えたのでそれが同家の手中に入らず政府所有となっていたので結局は中井家の手にその新田は残らなかった。

## 2 中井家の経営活動の特長

その特長の第1にあげなければならないのは共同企業を軸に企業活動が展開されていったことである。中井家の経営網は図4のとおりであるが、そこで分かるように共同企業の形態が主力をなしていることである。共同企業形態をとることによって、他人資本の導入をはかり、産物廻し手法と共に経営活動を飛躍的に向上せしめたのである。その手法は以下の通りである。第1は無機能個人資本の導入である。無機能個人資本に対しては利息を支払うことによってそ

図4 中井家の店舗網



(注) ——— は初代によって開設された出店, - - - - - は二代によって開設された出店, - · - · - は三代によって開設された出店, ——— は四代によって開設された出店  
 ◎は共同企業, ⊙は別家で枝店になったもの  
 ~~~~~ より左が二代以降本家に属した店

(出所) 江頭恒治『近江商人中井家の研究』799ページより引用作成。

の責を果たしたのであるが、これを仙台店利潤配当表で見ると、配当は1781年まで続けられたがその後は、海難などの損害もあり、利潤分配が停止されている。その後は単なる預かり金として利子が支払われている。共同企業の場合は利潤は持分に応じ配当されるわけである。

第2は、無機能資本ではあるが實際上、会社監査その他に事実上経営に参加している場合である。天竜店及び尾道店がそうである。

表 2 出資持分表

| 出資者名           | 中井源左衛門 | 矢野新右衛門 | 井田助右衛門 | 杉井九右衛門 | 脇村宗兵衛 | 合計    |
|----------------|--------|--------|--------|--------|-------|-------|
| 1772<br>(安永元年) | 3,375両 | 500    | 500    | 312.5  | 312.5 | 5,000 |
| 1773<br>(安永2年) | 5,400両 | 800    | 800    | 500    | 500   | 8,000 |
| 持分             | 13.5分  | 2      | 2      | 1.25   | 1.25  | 20    |
|                | 67.5%  | 10     | 10     | 6.25   | 6.25  | 100   |

(出所) 江頭恒治『近江商人中井家の研究』179～180ページより引用作成。

表 3 中井家仙台店利潤配当表

| 出資者<br>年次 | 中井源左衛門<br>(13分5厘) | 矢野新右衛門<br>(2分) | 井田助右衛門<br>(2分) | 杉井九右衛門<br>(1分2厘5毛) | 脇村宗兵衛<br>(1分2厘5毛) | 合計<br>(20分) |
|-----------|-------------------|----------------|----------------|--------------------|-------------------|-------------|
| 1772      | 506両1歩            | 75両0分          | 75両0分          | 46両3分              | 46両3分             | 749両3分      |
| 73        | 450.2             | 66.3           | 66.3           | 41.2               | 41.2              | 667.0       |
| 74        | 486.0             | 72.0           | 72.0           | 45.0               | 45.0              | 720.0       |
| 75        | 526.2             | 78.0           | 78.0           | 48.3               | 48.3              | 780.0       |
| 76        | 486.0             | 72.0           | 72.0           | 45.0               | 45.0              | 720.0       |
| 77        | 486.0             | 72.0           | 72.0           | 45.0               | 45.0              | 720.0       |
| 78        | 526.2             | 78.0           | 78.0           | 48.3               | 48.3              | 780.0       |
| 79        | 364.2             | 54.0           | 54.0           | 33.3               | 33.3              | 540.0       |
| 80        | 364.2             | 54.0           | 54.0           | 33.3               | 33.3              | 540.0       |
| 81        | 364.2             | 54.0           | 54.0           | 33.3               | 33.3              | 540.0       |

(出所) 江頭恒治・同上書, 180ページより引用。

第3は、現地資本の機能資本家に無機能資本とした中井家が参加する場合であるが、この場合も事実上中井家がある程度の発言権があった。

第4は、無機能資本家の中井家と労務資本のみを提供する支配人との共同事業のことである。この例として相馬店をあげることができる。

以上の如く中井家の共同企業は4つのパターンに分けて考えることができる。すなわち、

機能資本家としての中井家——第1および第4の場合

事実上の機能資本(形式は無機能資本ではあるが)——第2, 第3の場合

中井家以外でも近世にあっては三井、鴻池、小野、島田、住友などは共同企業の形態をとっていたが必ずしも中井家と同一ではなかったようである。たとえば、三井家の場合は、大元方、総領家、本家5家、遠家3家という形態をとっていたが、これは事業の積極経営をはかるというより、家族主義的であり資本の分散消滅を防ぐのが目的であったようである。

近江商人の他の例として共同企業形態のそれは、西川伝沼の海産物移出事業、近江屋惣兵衛の択捉島(北海道)の場所請負などの共同企業形態である。これらは中井家の共同企業形態より一歩おくれているという指摘もあるようだ。

### 中井家の企業経営の組織

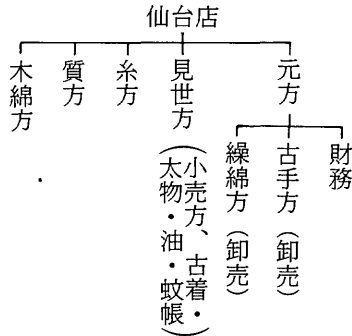
中井家の経営形態は概して図4の如き形態をしていて出店のなかでは共同企業形態をとるものが多かったようだが、いずれも独立性をもったものが多い。各店ごとに独立会計を実施して本家は管理機能を主体として動いていた。本店は各店の帳簿を基礎にこれを総合的に統括していたのである。形態としては三井の場合と同じだが三井の場合は本店の力が非常に強く各店の独立性は余り強くなかったが中井家の場合は前述のごとく各店の独自性は三井と異なり強かったのである。

中井家の経営組織は時代によって異なっていたが、図5に見るような店組織をとっていた。

元方は——会計、人事、資金運用などを主として司り、他は業務部門ということになる。元方には支配役と支配次役がおり、業務部門には当人と当人次役がいた。当人よりも支配役の方が格が上であった。支配役の任務は主人に従ってこれを管理運営するにあったのである。店は他の場合と同様に丁稚制度がその基盤にあったのであり、経営家族主義にもとづく、年功序列、終身雇用制であったのであり、一般的な丁稚雇用制度であった。つまり、丁稚10年、手代10年を経て番頭になり、商売上、責をとるようになるのである。番頭が多い場合はそのうちの1人が支配人となるのであった。中井家も先祖代々この掟を守ってきたのは他の近江商人の場合と同様である。手代になるのは元服後のようであった。勿論、このような段階的出世の過程は人によってその速度も異なってい



図5 仙台店の店組織



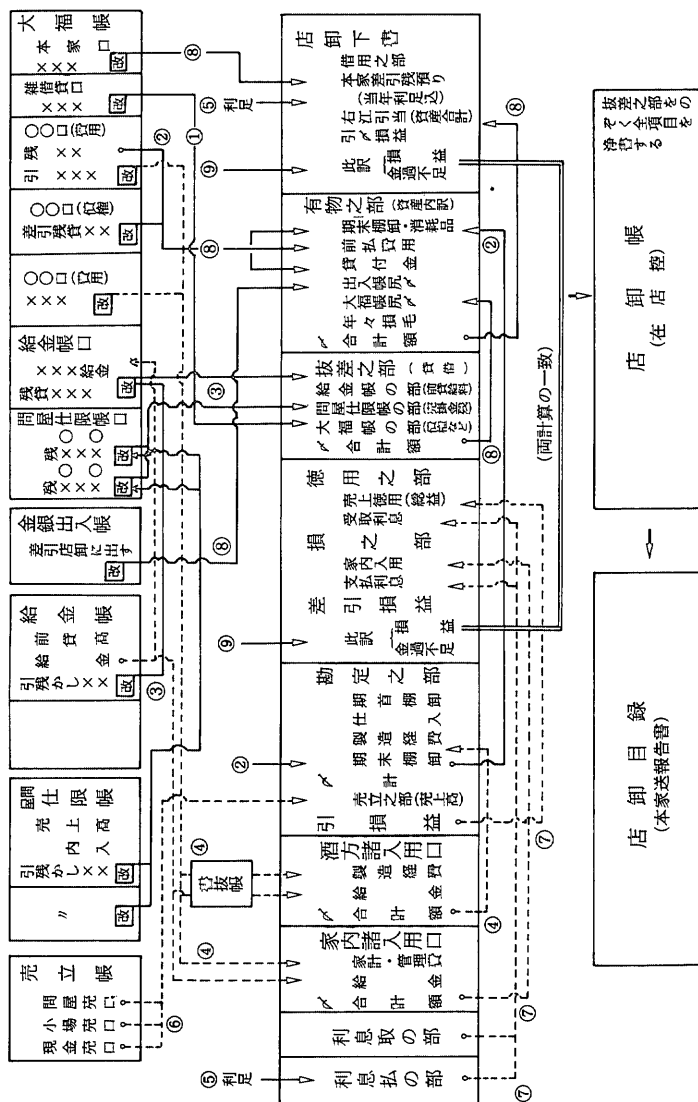
たのは当然である。丁稚から元服までには半元服の期間もあったようだが正式に給金を貰うようになるのはその後のことであった。

入店後何度か帰郷をゆるされたが、それを称して、「初登り」「二度登り」「三度登り」といった。大体「二度登り」が終わるころ、当人を経て支配役へと栄進するようであった。丁稚、手代、番頭役を終わって「宿這入り」を経て別家を立てることがゆるされた。別家して別店舗を構えるようになると、財産を分けてもらい、退職金をいただくことになる。中井家の場合、別店を構えるさいには次の2つの方法があった。1つは今までの毎月の給金の中から一部分を分けて蓄積して利息をつけた積立金制度と、いままでの退職金を支払い別家の出資金とする場合があった。

以上簡単であるが要約すると中井家の経営組織は子供、丁稚、手代、当人、支配役、後見役、別家を基盤とする店方制度であり、指揮系統を明確にする、終身雇用制をとっておったのであり、そこに一部業績主義をとり入れ、今日いわれている日本的経営の源流とも考えることができる。

### 3 財務管理と家法

商家経営においては経理、財務観念が明確であることは必要条件である。これを近江商人、就中中井家について見ると明確に資本概念、会計技術に現代的感覚を読みとることができるのである。それは複式会計簿記技術の採用である。



その事は、三井家、鴻池家につづいて近江商人である中井家、矢野家、京都下村家、伊勢商人である長谷川家、富山家及び出雲の日野家においても複式簿記の帳合が採用されているのである。中井家の場合は当時の企業の記帳技術の点から見るならばそれは最高の水準をいくものであるとされている。中井家の場合「望性金」なる資本概念が明確に確立されており、これは出資金に該当するものであり、利益計算が行われる場合、利益処分に優先するものであるという概念で処しているようであった。この点が資本に対する中井家の維持の考え方のものであり、この考え方に基づいて、財務会計法としての複式の「本支店会計法」が確立されており、本家は毎年支店より決算書を呈出せしめて、営業を堅実に行わしめ、固定資産の取扱い、本家費用の支店負担、利息、徳用の確立、店卸の時の本家手代の立合など極めて厳格に行われていたようである。

因みに中井家の帳合記入手続き図を見ると図6のようである。

当時として進んだ記帳技術といわれているが、西洋のそれと異なるところは、決算を行う場合に、二面式になっていないため、複式構造に書き直す必要があったことである。

なお労務組織について若干述べたが、具体的賃金の相対価格については省略するが、勿論ここでは具体的には、上級職以外でも業績主義がとり入れられていた。

給金のほかに「奉公人給分小遣い金」という制度が中井家にはあって給金に一定の利益をつけて積立させ利息をつけて、退職金、賞詞金(ほう美金)に当てる制度がある。この規定は初めは50両であったものが1787(天明7)年には100両に、さらに翌年には150両になり1800(寛政12)年には200両にまであがったようである。又中途退職者にも若干の面倒を見ていたようである。

なお、前述の通り、中井家の場合、途中で一度帰郷することを在所登りといっていたがこの登り費用は一定の基準の下に給付されていた。在所登りの他に、恵比須講の祝宴、歌舞伎見物、会食等々の従業員に対する福利厚生政策が数多くなされていたようである。

江戸時代における著名の商家には家法として、家憲、家訓的なものと並んで店則といったものがあつた。家業を第一主義とするために、預かり物意識、分

限意識、奉公意識といったものがあつた。

中井家の場合、本家から各支店に出されたものが集大成され、それが経営理念として家法というものが成っていったようである。中井家の家訓として有名なものとしては、初代源左エ門良祐の「金持商人一枚起請文」二代光昌の「中氏制要」三代光熙の「和合寿福講」などがあげられる。中でも初代源左エ門良祐のそれは法然上人の一枚起請文の文体を借りて、子孫に家訓を残そうとしたものであり、何回もの修正を加え、彼が90歳の時に完成されたものであると伝えられている。この中には法然上人の慈善、寄付による祈りの精神が書かれておりそれが商人意識の精神面である儉約、勤勉、禁欲につながり、貪欲をすてることになる。算用については特に述べられていないのはすでに帳合法が確立していたので改めて強調する必要を認めしなかったのかも知れない。またこの起請文は、石門心学とも関係があつたといわれている。

二代目の「中氏制要」は起請文よりも経済思想がより強力に強調されているようであり、商業経営上の規則が事こまかに書かれている。

要するに中井家の経営活動は多方面にわたってより革新的なのがその特長である。

共同企業形態をとり、望性金なる資本概念の確立、帳合法の完成、店則の完成、整備、労務政策の充実をはかり、わずか初めには20両であつたものが幕末には本家だけでも25万両に達したのは誠に脅威に値するものといわねばならない。

中井家が三井のように明治維新を機に積極展開ができなかったのは数々なる理由があるのであるが、鴻池家の場合と同様に、時代の流れにさからえず仙台藩と関係を深くし、大損害を蒙ったこと及び人材を欠いたこともあげられる。

#### 4 近江商人の活躍さまざま

最後に近江商人を代表する現在もその名の知られている面々を紹介してこのペーパーを終わることにしよう。

既述の住友家の足跡の中で述べているように住友家の重鎮広瀬幸平は近江商人の出身者である。彼は迫りくる困難を克服して、別子銅山を鉱夫5,000人を

雇い、大経営をいち早く西洋式技術を導入せしめて住友家を盤石の上に確立を見たのである。今日の住友金属鉱山がそれで住友コンツェルンの中核となったのである。彼は関西財界の興隆につくし、公人としての功績はこの人に一層の栄光をもたらしている。

つぎに関西財界として忘れてはならないのは日本生命の弘世助三郎であろう。彼は、彦根藩の米札引替所の豪商助市を始祖として、長じて養子に入ったのである。明治3年彦根融通会社に参画し、大津方六十四国立銀行、彦根銀行の創設者であった。彦根出身専修大学の前身専修学校の創立者である横浜正金銀行の頭取であった政治家相馬永蔵を説いて近江新報を発刊するなど地方の経済界に功績が大であった。後に大阪に出て、第百廿一、日本共同、日本中立銀行を合併して一躍大銀行の基礎を固めた。また彼は大阪鉄道にも参画し、関西の鉄道事業の礎を築いた。一方明治19年以来研究を重ねて、生命保険事業の新規事業を開拓し、県警察部長であった片岡直温を迎えて、初代社長にすえたのである。助三郎の長男である長太郎は明治4年彦根に生まれ彦根中学、三高を経て、軍務に服し、三菱合資会社銀行部、日本勧業銀行、山口銀行に勤務し、明治41年に日本生命保険に専務取締役として入り、昭和4年に三代社長に就任する。昭和22年に、相互会社に組織を変更、同44年には契約高10兆円を突破契約高では世界第1位、職員は内外併せて、6万5,000人の巨大企業に成長せしめたのである。

つぎにやはり近江出身者である東洋棉花創立者児玉一造をあげることができる。彼のみではなく彼の弟利三郎も同時にあげなければならない。というのは彼は彦中から、神戸高商、東京高商専攻科、丸紅商事を経て、豊田紡績に入り、大正15年に豊田自動織機を分離独立せしめ、自ら社長になった。彼は将来有望である自動車の製造に着目し、鋭意調査につとめてきたがすでに年を取っており、長男の喜一郎に家業をつがせ、昭和9年に喜一郎は国産第1号の試作に成功している。今日のトヨタをあらしめた原動力を見ることができるのである。その後ストライキの責を取り、喜一郎社長以下全役員引責退任し、豊田自動織機社長のまま石田退三が自工の社長に就任し、ここに「石田新体制」の下にトヨタが再発足することになったのである。

トヨタ自工と同時に忘れることができないのは近江商人出身のヤンマーディーゼルの創業者山岡孫吉であろう。ヤンマーディーゼルの成功は山岡孫吉の郷土愛と合理的企業家精神の織りなす結果であるとされている。

彼は学歴もなく、貧農の子として生まれ、ガス管理設工となり、これとの関連で送電線のない農村で小型石油発動機がどんどん普及し、ヤンマーディーゼルの原型である堅型二サイクルエンジンの国産型自動発動機が初めて出現することにいたる。

戦時中は上陸用舟艇で軍需生産に参画し、戦後は、長浜工場でS型エンジンとポンプの製販に力を向けた。その後船用エンジンメーカーとして世界各国に輸出もするようになり世界のヤンマーとなり27年増資してヤンマーディーゼル(株)となったのである。現在ヤンマーディーゼルについて考えてみると、その内燃機関の80%が湖東で集中生産されていることであり、まさに故郷に錦を飾ると同時にたゆみない郷土愛をそこに感ずるものである。

最後にあげねばならないのは東急グループの五島慶太と鎬を削った西武の堤康次郎である。彼は早大卒業後大正7年に軽井沢、箱根の観光開発を手がけ、昭和15年には池袋の菊屋デパートを買収、デパート営業にのり出し、19年には箱根土地(株)を国土計画興業と改称し、武蔵野鉄道、西武鉄道、食料増産を合併して西武鉄道(株)とし、郷里の滋賀県では近江鉄道を手にした。第2次大戦後は帝都百貨店を合併し、西武百貨店とし、さらに西友ストアを創設し、完全体制の確立を見るに到った。

デパート経営についていうならば、大阪の高島屋デパートも近江出身であり、大丸百貨店の開店は京都であるが、現社長は近江八幡の産である。またスーパーチェーンの雄である平和堂の夏原平次郎も滋賀県の出身である。

その他材木会社では津田産業(津田良太郎)、あるいは日本石綿盤製造(KK)の蒲生出身の堀井彦太郎をあげることができる。さらには戦後派としての京樽の田中博は湖東秦荘町の出身であり、奇想天外の関西寿司で名をうっている。又和菓子製造では、大津の叶医療社長芝田清次をあげることができる。

その他近江商人関係の現在企業は巻末表のとおりである。

〔参考文献〕

- 小倉栄一郎『中井家帳合の法』ミネルヴァ書房、1962年
- 菅野太郎『日本社会企業発生史の研究』経済評論社、1963年
- 伊藤忠商事株式会社編『伊藤忠商事100年』伊藤忠商事株式会社、1969年
- 高橋久一「伊藤忠商店における財務管理方式」経済経営研究年報26号、1976年
- 宮本又次『近世商業経営の研究』講談社、1977年
- 林玲子『天保期における新・江戸問屋』北島正之編「幕藩体制商家解体の研究」吉川弘文館、1978年
- 小倉栄一郎『近江商人の系譜』日経新書
- 菅野和太郎『日本会社企業発生史の研究』
- 喜田貞吉「古代の商人」（日本商人史）
- 江頭恒治『江州商人』
- 菅野和太郎『近江商人の研究』
- 八田良一編『高島織物史』全
- 中村直勝監修『彦根市史』上・中・下分冊
- J. ヒルシュマイヤー著、土屋喬雄、由井常彦訳『日本における企業者精神の生成』
- 滋賀県史編纂委員会編『滋賀県史』
- 『近江神崎郡史』上下、『近江蒲生郡史』巻1—5『近江愛知郡史』巻1—3
- 平瀬光慶『近江商人』全
- 野沢鉄嶺著『北海道在住滋賀県人』
- 原田敏丸・渡辺守順著『滋賀県の歴史』
- 『近江日野町志』
- 大北正史『滋賀の産業史』
- 江頭恒治『近江商人中井家の研究』
- 『盛岡市通史』
- 日本会計研究学会『近代会計百年』
- 宮本又次『金つくり列伝』
- 『宮本又次著作集』第八巻「大阪町人論」
- 帝国製麻株式会社『30年史』及び『50年史』
- 藤井彦四郎編纂委員会『藤井彦四郎伝』
- 日本生産性本部『戦後経営史』
- 日本化学繊維協会『日本化学繊維産業史』
- トヨタ自動車販売株式会社『モータリゼーションとともに』

### 近江商人（滋賀県出身実業家）関係現存企業リスト

○東京・大阪・京都は家族単位個人企業、酒小売、飲食業は原則として省略○名古屋市など未調査都市あり○地方都市は大小にかかわらず収録○古い創業のときは明示、戦後創業のときは創業年を示していない○所在地は原則として本社本店のみとする○県関係者が複数のときは代表的人物一名に限った。役職と人名は昭和40年代の調査につき現在と異なる場合もある。（小倉栄一郎『近江商人の系譜』による）

| 所在地    | 企業名     | 業 種   | 役職者と（創業者・関係者・年代） |                | 出身地   |
|--------|---------|-------|------------------|----------------|-------|
| 〈東京都〉  |         |       |                  |                |       |
| 千代田区   |         |       |                  |                |       |
| 丸の内    | 八千代産業㈱  | 総合商社  | 社長               | 山本 清           | 彦根市   |
| 平河町    | ㈱江戸屋呉服店 | 呉服小売  | 〃                | 亀岡伝一郎          | 〃     |
| 外神田    | 川口化学工業㈱ | 工業薬品  | 〃                | 山田 正水          | 大津市   |
| 須田町    | ㈱竹居田商店  | 生地卸小売 | 会長               | 竹居田新七          | 近江町   |
| 鍛冶町    | 堀井謄写堂㈱  | 謄写版   | 社長               | 堀井彦次郎（新次郎明治27） | 蒲生町   |
| 美土代    | 古川拓殖㈱   | アベカ栽培 | 〃                | 古川 義三（本人大正4）   | 豊郷町   |
| 霞ヶ関    | 東京カス    | 肥料    | 〃                | 村井保治郎          | 八日市市  |
| 丸の内    | 日本ゼオン㈱  | 合成樹脂  | 〃                | 古我 周二          | 今津町   |
| 大手     | 丸紅㈱     | 総合商社  | 会長               | 市川 忍（安政5）      | 豊郷町   |
| 中央区日本橋 |         |       |                  |                |       |
| 人形町    | ㈱京樽     | 食堂業   | 社長               | 田中 博           | 秦荘町   |
|        | ㈱丸田屋    | 包装材料  | 〃                | 松本 俊夫（旧幕時代より）  | 彦根町   |
| 富沢町    | ㈱大益商店   | 繊維問屋  | 〃                | 大前益太郎          | 能登川町  |
|        | 岡島㈱     | 〃     | 〃                | 岡島 久七          | 彦根市   |
|        | ㈱桂田     | 〃     | 〃                | 桂田 憲作          | 能登川町  |
|        | 木村商事㈱   | 〃     | 〃                | 木村 貫一          | 湖東町   |
|        | ㈱金星     | 〃     | 〃                | 小嶋 藤三          | 彦根市   |
|        | ㈱近藤伝    | 〃     | 〃                | 近藤 竜彦          | 豊郷町   |
|        | ㈱柴孫     | 〃     | 〃                | 柴田孫七郎          | 長浜市   |
|        | ㈱第一衣料   | 〃     | 〃                | 中島 健           | 秦荘町   |
|        | ㈱東京紅藤   | 〃     | 〃                | 平田又三郎          | 五箇荘町  |
|        | ㈱中合     | 百貨店・卸 | 〃                | 安藤 順造          | 長浜市   |
|        | ㈱中平     | 繊維問屋  | 〃                | 中川 平七          | 五箇荘町  |
|        | 中村産業㈱   | 〃     | 〃                | 中村 秀雄          | 八日市市  |
|        | 西川産業㈱   | 〃     | 〃 14代            | 西川 五郎（甚五郎元和元）  | 近江八幡市 |
|        | 白鳳産業㈱   | 〃     | 〃                | 河村道之助          | 彦根市   |
|        | 畑竜商事㈱   | 〃     | 〃                | 畑 竜雄           | 彦根市   |
|        | ㈱藤安     | 〃     | 〃                | 阿藤 久七（大正10）    | 愛知川町  |



|      |           |       |    |                  |       |
|------|-----------|-------|----|------------------|-------|
|      | マタエ西村(株)  | //    | 会長 | 西村四郎七            | 秦荘町   |
|      | 又三藤田(株)   | //    | 社長 | 藤田竹次郎            | 五箇荘町  |
|      | (株)丸京     | //    | 会長 | 瀬川亮三郎            | 蒲生町   |
| 堀留町  | 青山(株)     | //    | 社長 | 青山寿太郎            | 豊郷町   |
|      | 市田(株)     | //    | // | 市田光太郎 (弥三郎明治7)   | 五箇荘町  |
|      | 川端(株)     | //    | // | 川端嘉一郎            | 彦根市   |
|      | 清紅(株)     | //    | // | 小川 又次            | 湖東町   |
|      | (株)小泉東京支店 | //    | // | 小泉達之助 (文化年間)     | 五箇荘町  |
|      | 小杉産業(株)   | メリヤス部 | // | 小杉総一郎 (札幌で明治16)  | //    |
|      | (株)国洋     | 繊維問屋  | // | 奥井新左エ門 (明治23)    | //    |
|      | (株)神野     | //    | // | 神野房之助            | 愛知川町  |
|      | (株)大利商店   | //    | // | 鈴木 利一            | 甲南町   |
|      | 大和繊維産業(株) | //    | // | 島野宗太郎            | 彦根市   |
|      | チョーギン(株)  | //    | // | 小林篤治郎 (吟右エ門天保2)  | 湖東町   |
|      | (株)日商     | //    | // | 西 幸三郎            | 近江八幡市 |
|      | 松居織物(株)   | //    | // | 松居元右エ門           | 五箇荘町  |
|      | (株)丸正     | //    | // | 島村 定吉            | 日野町   |
| 日本橋通 | (株)西川     | 寝具    | // | 西川 五郎 (甚五郎元和元)   | 近江八幡町 |
|      | (株)西川商店   | 砂糖・棉花 | 会長 | 西川庄六 (庄六明暦元)     | //    |
|      | (株)柳屋本店   | 化粧品製卸 | 社長 | 外池五郎三郎 (字平明和年間)  | 蒲生町   |
|      | (株)柳屋ビル   | 貸ビル   | // | 外池 寅松 ( // )     | //    |
|      | (株)山田平安堂  | 漆器    | // | 山田孝太郎 (孝之助大正13)  | 草津市   |
|      | 帝国製麻(株)   | 麻糸・布  | // | 安田善五郎 (高谷光雄明治17) | 大津市   |
|      | 東邦レーヨン(株) | 化合織紡績 | // | 真船 清蔵 (昭和35若林合併) | 彦根市   |
| 大伝馬  | 新英(株)     | 繊維問屋  | // | 稲垣 慶次            | 八日市市  |
|      | (株)山村商店   | 糸卸    | // | 山村功一             | 五箇荘町  |
| 小伝馬  | オーミヤ(株)   | 繊維問屋  | // | 吉川 太郎 (明治43)     | //    |
|      | 東京店       |       |    |                  |       |
|      | 東日本織物(株)  | 高級呉服  | // | 伊吹 広             | 水口町   |
| 越前堀  | 京極運輸商事(株) | 運送業   | // | 京極 友助            |       |
|      | 久星酒造(株)   | 醸造・卸  | // | 小林庄平             | 彦根市   |
| 室町   | 近江麻業(株)   | 繊維問屋  | 会長 | 久木庄右エ門 (本社彦根)    | 日野町   |
|      | 森五(株)     | //    | 社長 | 森 悟一             | 近江八幡市 |
| 浜町   | (株)丸広     | 帯地卸   | 社長 | 広瀬 平助            | 日野町   |
| 本町   | 塚本商事(株)   | 繊維問屋  | 会長 | 山田弥一郎 (定右エ門文化9)  | 五箇荘町  |
| 馬喰町  | (株)木村太商店  | //    | 社長 | 木村 太郎            | 彦根市   |
| 久松町  | (株)木村政    | //    | // | 木村政蔵             | 甲良町   |
|      | (株)丸上     | //    | // | 上 達次郎            | 守山市   |

|           |               |        |    |                       |       |
|-----------|---------------|--------|----|-----------------------|-------|
| 芳町        | ㈱東京村田         | 〃      | 会長 | 村田東洋児                 | びわ町   |
|           | ㈱丸太柴田商店       | 〃      | 社長 | 柴田 源七（幕末）             | 長浜町   |
| 小網町       | 武田商事㈱         | 〃      | 〃  | 武田 恒                  | 日野市   |
| 蠣殻町       | 三松商事㈱         | ネクタイ 卸 | 〃  | 小堀五三郎                 | 蒲生町   |
| 石町        | 日本紙パルプ商事㈱紙卸   | 〃      | 〃  | 平田英一郎                 | 近江八幡市 |
| 新川        | ㈱山星金星         | 酒卸     | 会長 | 鈴木忠右エ門（寛延元年）          | 日野町   |
| 横山町       | ㈱三泉           | 繊維問屋   | 社長 | 田中 恭三                 | 八日市市  |
|           | 日清紡績㈱         | 綿・化合繊維 | 〃  | 露口 達<br>（山本元三郎 前川太兵エ） | 彦根市   |
| 浪速町       | ㈱ヤマモト         | 婦人服製卸  | 〃  | 山本 敷                  | 今津町   |
| 築地        | 宝幸水産㈱         | 水産問屋   | 〃  | 深尾 清吉                 | 近江八幡市 |
| 京橋        | ㈱万寿堂（東京）      | 陶器小売   | 店長 | 上山 隆文（天明9）            | 甲賀町   |
|           | 兼松江商㈱         | 総合商社   | 社長 | 清川 正二（北川与平明治38）       | 彦根市   |
| 豊岸島       | ㈱大星岡村商店       | 酒卸     | 〃  | 岡村信一郎                 | 豊郷町   |
| 港区        |               |        |    |                       |       |
| 新橋        | 大崎運送㈱         | 運送倉庫   | 〃  | 中西 正道                 | 近江八幡市 |
|           | 住友金属鉱山㈱       | 非鉄金属   | 会長 | 河上健次郎（広瀬宰平天正10）       |       |
| 赤坂        | 大阪商船三井<br>船舶㈱ | 海運     | 社長 | 福田 久雄（広瀬宰平）           | 野洲町   |
| 台東区       |               |        |    |                       |       |
| 雷門        | ㈱瀬川商店         | 洋傘柄    | 〃  | 瀬川 兵蔵                 | 草津市   |
| 北区        |               |        |    |                       |       |
| 滝野川       | ㈱近江屋呉服店       | 呉服     | 〃  | 沢村 藤蔵                 | 湖東町   |
| 墨田区       |               |        |    |                       |       |
| 本町        | ㈱大森店          | 油脂燃料   | 〃  | 大森 良三                 | 浅井町   |
| 緑町        | 北川メリヤス工業㈱     | メリヤス製販 | 〃  | 北川 博資                 | 彦根市   |
| 石原町       | トレイン工業㈱       | 〃      | 〃  | 西村角治郎                 | 永源寺町  |
| 東両国       | ㈱西彦商店         | 酒販     | 〃  | 西村 道三                 | 愛知川町  |
| 東墨田       | 本田産業          | 皮革     | 〃  | 本田利左右                 | 米原町   |
| 江戸川区      |               |        |    |                       |       |
| 南小岩       | ㈱小岩長崎屋        | 百貨店    | 常務 | 青山小太郎                 |       |
| 江東区       |               |        |    |                       |       |
| 深川新<br>大橋 | ㈱スワン商会        | 寝具製販   | 社長 | 西沢作兵衛                 | 愛東町   |
| 渋谷区       |               |        |    |                       |       |
| 神宮前       | 国土計画興業㈱       | 土地経営   | 〃  | 堤 義明（旧箱根土地）           | 秦荘町   |
| 目黒区       |               |        |    |                       |       |
| 下目黒       | 雅叙園産業㈱        | 料理旅館   | 〃  | 細川 八郎                 | 浅井町   |
| 碑文谷       | 新東酒販㈱         | 酒卸     | 〃  | 久村 卯平                 | 日野町   |
| 新宿区       |               |        |    |                       |       |

|        |         |        |     |                  |      |
|--------|---------|--------|-----|------------------|------|
| 築地町    | ㈱近江屋商店  | 米菓製販   | 〃   | 仙波 敬造            | 安土町  |
| 歌舞伎    | 岡崎醤油㈱   | 醤油醸造   | 〃   | 岡崎 広吉            | 日野町  |
| 角筈     | ㈱カワセ    |        | 会長  | 川瀬 広吉            | 〃    |
| 鶴巻町    | (有)北川商店 | 染色仕上   | 社長  | 北川 聡美            | 彦根市  |
| 杉並区    |         |        |     |                  |      |
| 西荻窪    | ㈱近江屋    | 米菓製販   | 〃   | 塚本正治郎            | 五箇荘町 |
| 上高井戸   | ダイナカロブ㈱ | 麻ローブ軍手 | 〃   | 堤中 明一            | 安曇川町 |
| 世田谷区   |         |        |     |                  |      |
| 代沢     | 近江精機㈱   | 金型     | 〃   | 松川善次郎            | 湖北町  |
|        | 富士化工㈱   | プラ成型   | 会長  | 国領 嘉一            | 湖東町  |
| 豊島区    |         |        |     |                  |      |
| 南池袋    | ㈱一貫堂時計店 | 時計宝石   | 〃   | 福田善治郎            | 水口町  |
|        | 西武鉄道㈱   | 電鉄     | 〃   | 堤 義明 (昭和19合併)    | 能登川町 |
|        | 西武バス㈱   | バス事業   | 〃   | 山本 広治            | 八日市市 |
|        | 西武百貨店   | 百貨店    | 〃   | 堤 清二 (昭和15)      | 秦荘町  |
|        | 西友ストアー  | 量販チェーン | 〃   | 〃 (昭和39東京)       | 〃    |
|        | 西武化学工業㈱ | 化学肥料   | 〃   | 森田 重郎            |      |
| 西池袋    | ㈱利休園    | 茶      | 〃   | 山田 幸生            | 信楽町  |
| 板橋区    |         |        |     |                  |      |
| 板橋     | ㈱モリタ    | 酒卸     | 〃   | 森田 哲夫            | 彦根市  |
| 練馬区    |         |        |     |                  |      |
| 高野台    | ㈱泉屋     | 総合食品   | 〃   | 竹崎 敬一            | 水口町  |
| 八王子市   | 堤商事㈱    | 繊維問屋   | 〃   | 青山 貞夫            | 彦根市  |
|        | 西岡酒造㈱   | 醸造業    | 〃   | 西岡儀兵エ (安政元)      | 日野町  |
|        | (有)篠村商店 | 酒卸     | 〃   | 篠村清次郎 (久之助明治24)  | 〃    |
| 町田市    | ㈱岡直三郎商店 | 醤油醸造   | 〃   | 岡 忠直             | 〃    |
| 武蔵野市   | ㈱三鷹産業   | メリヤス製  | 〃   | 高木 繁幸            | 多賀町  |
| 〈神奈川県〉 |         |        |     |                  |      |
| 秦野市    | ㈱オーミヤ   | 醸造業    | 社長  | 鈴木千太郎 (矢野定次郎文化8) | 日野町  |
| 厚木市    | 近江屋篠村商店 | 醤油・味噌  | 〃   | 篠村伊久造 (伊三郎安政3)   | 〃    |
| 横浜市    | (有)大星   | 醸造業    | 〃   | 岡本 忠雄            |      |
| 〈千葉県〉  |         |        |     |                  |      |
| 野田市    | おおみや    | 菓子     | 店主  | 植田 昭 (多郎左エ門創業)   | 湖東町  |
|        | 日野屋     | 酒販     | 〃   | 横田 福二            | 日野町  |
|        | 近江屋化粧品店 | 化粧品小   | 〃   | 岡田 君 (江戸期創業)     |      |
|        | 近江屋酒店   | 酒販     | 〃   | 野田 よし            |      |
| 銚子市    | ㈱北村治兵衛  | 畳表     | 〃7代 | 北村治兵衛 (享保11)     | 野洲町  |
| 〈茨城県〉  |         |        |     |                  |      |

|       |           |        |       |                |       |
|-------|-----------|--------|-------|----------------|-------|
| 水海道市  | 榑竹村酒造店    | 醸造業    | 支配人   | 西村 吉次          | 蒲生町   |
| 真壁    | 村井醸造榑     | 〃      | 社長    | 村井 重助 (延宝年間)   | 日野町   |
|       | 榑西岡本店     | 〃      | 〃     | 西岡半右エ門 (明治5桜井) | 〃     |
| 結城市   | 榑村井酒販     | 酒販     | 〃 5代  | 村井 謙一 (虎三郎創業)  | 〃     |
|       | 内蔵        | 酒・食品   | 店主4代  | 小西孝太郎          | 近江八幡市 |
|       | 若駒        | 酒販     | 〃 3代  | 脳 政宏           | 水口市   |
|       | 小西榑       | 鋼材建材   | 社長4代  | 小西 栄造          |       |
|       | まるみや      | 化粧品店   | 店主    | 小西 三吉          | 蒲生町   |
| 下館市   | 下館地区通運榑   | 運送業    | 社長    | 外池陽一郎          | 〃     |
|       | 榑井狩醸造本店   | 醸造業    | 〃     | 井狩平九郎 (寛政12)   | 近江八幡市 |
|       | 榑フジムラ     | 醤油醸造   | 〃 12代 | 藤村 茂雄 (寛文4)    | 日野町   |
| 水戸市   | 沢庄榑       | 繊維問屋   | 〃     | 沢 正雄           | 甲賀町   |
| 〈栃木県〉 |           |        |       |                |       |
| 鹿沼市   | 榑大音字吉商店   | 印刷など   | 社長2代  | 大音 字吉 (大正12)   | 余呉町   |
| 足利市   | 大塚芳造商店    | 酒販     | 店主2代  | 大塚 芳造 (明治42)   | 蒲生町   |
|       | 榑山村平商店    | 繊維問屋 } | 社長8代  | 山村 平八          | 五箇荘町  |
|       | 榑山源商店     |        |       |                |       |
|       | 榑川源       | 〃      | 〃 2代  | 川村源次郎          | 能登川町  |
|       | 榑足利デパート   | 〃      | 〃 3代  | 小沢 竜介          | 八日市市  |
|       | 川添繁商店     | 糸商     | 〃     | 川添 繁 (大正13)    | 浅井町   |
|       | 榑中村商店     | 〃      | 〃     | 中村 与平          | 長浜市   |
|       | 大橋元太郎     | タオル製   | 店主    | 大橋元太郎          | 〃     |
|       | 西沢 新一     | 整経     | 〃     | 西沢 新一          | 長浜市   |
| 佐野市   | 榑江州屋商店    | 味噌醬油   | 社長    | 龜山 佐平 (明治初年)   | 秦荘町   |
|       | 日本醬油榑     | 〃      | 〃     | 岡 太郎次 (明治6年)   | 日野町   |
|       | 増田勝三郎     | 酒販     | 店主    | 増田勝三郎          | 水口町   |
| 小山市   | 若駒酒造榑     | 醸造業    | 社長    | 柏瀬善一郎          | 〃     |
| 岩舟    | 榑藤沢本店     | 〃      | 〃     | 藤沢博三郎          | 日野町   |
| 〈群馬県〉 |           |        |       |                |       |
| 桐生市   | 榑矢野商店     | 染色雜貨   | 社長    | 増田 禎三 (久左エ門享保) | 〃     |
|       | 榑矢野本店     | 酒販・卸   | 〃     | 矢野 昭 (久左エ門天明4) | 〃     |
|       | 榑近江屋書店    | 書籍文具   | 〃     | 岸田 英作 (熊吉明治初)  | 彦根市   |
|       | 榑山梶商店     | 酒卸     | 〃 3代  | 山梶 庄平          | 安土町   |
|       | 榑遠田商店     | 酒・食品小売 | 〃     | 遠田 安蔵 (文太郎)    | 八日市市  |
|       | 榑森本酒店     | 〃      | 〃     | 森本 正介          | 日野町   |
|       | 榑吉村酒倉     | 〃      | 〃     | 吉村 米示 (菊治郎明治)  | 土山町   |
|       | 榑山下紡績機械商会 | 紡機商    | 〃     | 山下金次郎 (滋治郎)    | 八日市市  |
|       | フジレース榑    | レース編立  | 〃     | 中野 盛雄 (和男)     | 虎姫町   |

|       |                       |       |      |                      |      |
|-------|-----------------------|-------|------|----------------------|------|
| 大間々町  | 奥村酒造 <sup>㈱</sup>     | 醸造業   | 〃    | 奥村栄一郎（久左エ門天明）        | 日野町  |
| 富岡市   | 東野酒店                  | 酒販    | 店主5代 | 東野 政吉                | 蒲生町  |
|       | <sup>㈱</sup> 梅村酒店     | 〃     | 社長   | 梅村 昇三（藤二郎）           | 〃    |
|       | <sup>㈱</sup> 大黒屋      | 〃     | 〃8代  | 西岡市兵エ（万延元年）          | 〃    |
|       | <sup>㈸</sup> 日野屋本店    | 雑貨商   | 〃    | 堀口要一郎（惣平）            | 〃    |
|       | <sup>㈸</sup> 広田寅吉商店   | 金物商   | 〃    | 広田 亀吉（寅吉）            | 愛知川町 |
|       | 現金屋酒店                 | 酒販    | 店主   | 永田 清（喜与太郎明治）         | 蒲生町  |
|       | 西田本店                  | 酒販    | 店主   | 西田 光治（長治郎）           | 蒲生町  |
| 高崎市   | <sup>㈸</sup> 矢田末吉商店   | 容器商   | 社長   | 矢田 末吉                | 土山町  |
|       | 小泉                    | 呉服寝具  | 店主   | 小泉栄三郎                | 愛知川町 |
| 沼田市   | 桑原支店                  | 医薬雑貨  | 〃2代  | 藤岡十四郎（宗兵エ明治30）       | 日野町  |
|       | <sup>㈸</sup> 榎屋酒店     | 酒販    | 〃2代  | 門谷 義雄（吉次）            | 蒲生町  |
|       | 正礼堂文具店                | 文房具小売 | 店主   | 松本 喜一                | 愛知川町 |
| 前橋市   | 日野屋                   | 酒販    | 〃    | 橋本 信子（松次郎明治22）       | 日野町  |
| 藤岡市   | 〃                     | 〃     | 〃    | 高井作右エ門（元文元酒造など）      | 日野町  |
| 伊勢崎市  | <sup>㈱</sup> 丸一酒店     | 〃     | 社長   | 高畑 正三（宝暦年間）          | 八日市市 |
|       | <sup>㈱</sup> 矢野本店     | 〃     | 〃    | 矢野 昭（久左エ門文政10）       | 日野町  |
|       | <sup>㈱</sup> 若村商店     | 食品・雑貨 | 〃    | 若村 直嗣（源左エ門文化7）       | 〃    |
|       | <sup>㈱</sup> 矢尾       | 菓子・パン | 〃    | 矢尾 章三                | 〃    |
|       | <sup>㈸</sup> 西村酒店     | 酒販    | 〃    | 西村 久治                | 〃    |
|       | <sup>㈸</sup> 多田呉服店    | 呉服    | 〃    | 多田 仙蔵                | 彦根市  |
| 〈埼玉県〉 |                       |       |      |                      |      |
| 大宮市   | <sup>㈱</sup> 鹿島屋      | 酒販    | 社長   | 鹿島 晃男                | 彦根市  |
| 川口市   | <sup>㈸</sup> 釜彦本店     | 鋳物材料  | 〃    | 飯田 泉                 | 〃    |
| 蕨市    | <sup>㈸</sup> 近江屋      | 呉服商   | 〃    | 北條 敏雄（大正12）          | 〃    |
|       | <sup>㈸</sup> 光本洋品店    | 洋品雑貨  | 〃    | 光本 菊枝（大正12）          | 〃    |
|       | 筑波産業                  | 不動産   | 〃    | 佐久間 克                | 長浜市  |
| 越谷市   | 宇田川呉服店                | 呉服    | 店主   | 宇田川五郎                | 豊郷町  |
| 騎西町   | <sup>㈱</sup> 釜屋       | 醸造業   | 社長   | 小森 四郎（久左エ門寛延2）       | 日野町  |
| 久喜町   | 寒梅酒造 <sup>㈱</sup>     | 〃     | 〃    | 鈴木永次郎（仙右エ門文政4）       | 〃    |
| 熊谷市   | <sup>㈱</sup> 寺川商店     | 織布    | 〃    | 寺川耕太郎                | 湖東町  |
| 上尾市   | 北西酒造 <sup>㈱</sup>     | 醸造業   | 〃    | 北西 隆蔵                | 日野町  |
| 行田市   | <sup>㈱</sup> 江州屋      | 酒卸    | 〃5代  | 川原平右エ門（文政元）          | 〃    |
|       | 宮川酒店                  | 〃     | 〃    | 宮川己之助                | 〃    |
|       | 横田酒造 <sup>㈱</sup>     | 醸造業   | 〃5代  | 横田庄右エ門（宝暦10創業・文化2開店） | 〃    |
|       | <sup>㈸</sup> 小川源右エ門商店 | 酒卸    | 〃    | 小川源右エ門（明治17）         | 〃    |

|       |           |        |       |                          |       |
|-------|-----------|--------|-------|--------------------------|-------|
| 本庄市   | ㈱小森商店     | 〃      |       | 北川善太郎（久左エ門明治43）<br>小森 正男 | 蒲生町   |
|       | ㈹こめ吉商店    | 酒販     | 〃 5代  | 川瀬 頼司（天保8）               | 近江八幡市 |
|       | 日の藤酒店     | 〃      |       | 乾 藤八（助三郎天保14）            | 蒲生町   |
|       | (名)つたや呉服店 | 呉服類    | 社長    | 北川徳二郎                    | 多賀町   |
|       | 木戸酒店      | 酒販     |       | 木戸 栄蔵                    | 彦根市   |
|       | (名)安井商店   | 電器・酒販  | 社長    | 安井 卯吉                    | 蒲生町   |
| 児玉町   | (名)久田     | 醸造業    | 〃     | 久田麟次郎（武平文政10）            | 永源寺町  |
| 小鹿野町  | (名)三橋     | 百貨店    | 〃     | 高田伝蔵                     | 彦根市   |
| 秩父市   | いづみや㈱     | 百貨店    | 社長    | 岡 幸八（文久元）                | 日野町   |
|       | ㈱矢尾商店     | 百貨店と酒  | 会長    | 矢尾悌三郎（喜兵衛寛延2）            | 〃     |
| 寄居    | ㈱藤崎惣兵衛商店  | 醸造業    | 社長    | 藤崎惣兵衛（宝暦6）               | 〃     |
| 〈山梨県〉 |           |        |       |                          |       |
| 甲府市   | ㈱十一屋      | 醸造業    | 社長    | 野口 忠蔵（宝暦元）               | 蒲生町   |
| 〈長野県〉 |           |        |       |                          |       |
| 長野市   | かくおか醸造㈱   | 味噌醸造   | 〃 3代  | 岡 喜三郎（喜兵衛安政6）            | 日野町   |
|       | ㈱川添商店     | 荒物雑貨   | 〃 14代 | 川添孝太郎（慶長年間）              | 湖北町   |
| 上田市   | 長野味噌㈱     | 味噌醸造   | 会長9代  | 岡 治兵衛（明和9長野で寛政6上田へ）      | 日野町   |
| 駒ケ根   | 西尾薬品      | 配置売薬   | 店主2代  | 西尾 四郎（昭和10）              | 甲賀町   |
| 〈静岡県〉 |           |        |       |                          |       |
| 沼津市   | ㈱辰巳鋼業     | 鉄工業    | 社長    | 園川 肇                     | 水口町   |
| 小山町   | ㈱新城酒店     | 酒販     | 〃     | 堀田 武男                    | 安曇川町  |
| 三島市   | 近江源商店     | 〃      |       | 平井源太郎                    |       |
| 富士宮市  | ㈱山中正吉商店   | 醸造業    | 〃     | 山中 正吉（天保元）               | 日野町   |
| 静岡市   | 日本ヘーベル印刷㈱ | 印刷     | 〃     | 岩井 平吉（幕末）                | 長浜市   |
|       | 弁慶そば屋     | そば商    |       | 藤田 清一                    | 木之本町  |
|       | ㈱島田商店     | 酒販     |       | 島田 功蔵                    | 蒲生町   |
|       | ㈱なすや      | 化粧品・雑貨 | 社長    | 木村 松三（明治初期）              | 甲賀町   |
|       | ㈱河瀬衡器製作所  | 衡器製販   | 〃     | 河瀬源右エ門（天正の頃）             |       |
|       | ㈱矢沢漆器店    | 漆器販売   | 〃     | 矢沢久右エ門（明治中期）             | 水口町   |
|       | ㈱扇子屋菓子店   | 菓子製販   | 〃     | 谷田庄兵衛（元禄16）              | 日野町   |
| 〈愛知県〉 |           |        |       |                          |       |
| 西尾市   | 鍋屋利八商店    | 金物販売   | 店主    | 辻 嘉和（鍋屋松兵衛元禄4）           | 栗東町   |
| 刈谷市   | ㈱豊田自動織機   | 織機製販   | 社長    | 豊田芳年（利三郎大正15）            | 彦根市   |
|       | トヨタ自動車工業㈱ | 自動車    | 会長    | 石田 退三（豊田利三郎昭和12）         | 〃     |
| 〈岐阜県〉 |           |        |       |                          |       |

|       |              |       |    |                       |      |
|-------|--------------|-------|----|-----------------------|------|
| 多治見市  | (有)デルコ       | 婦人服   | 社長 | 東 常夫 (菊昭和4)           | 彦根市  |
|       | (株)山喜        | 陶器商   | // | 谷口 勉 (喜三郎大正5)         | 土山町  |
|       | 高木商店         | //    |    | 高木 寛二 (昭和9)           | 甲南町  |
|       | 植田与三郎商店      | //    |    | 植田与三郎 (// 13)         | 永源寺町 |
| 〈三重県〉 |              |       |    |                       |      |
| 鈴鹿市   | (株)十一屋野田商店   | 醸造業   | 社長 | 野田六左エ門 (明治16) (祖は宝暦3) |      |
|       | 鈴鹿酒販(株)      | 酒販    |    | (明治28)                | 日野町  |
|       | (有)佐野金物店     | 金物建材  | // | 佐野三右エ門 (大正6)          | 甲南町  |
|       | 佐治屋酒店        | 酒販    |    | 藤本 恒吉 (昭和2)           | 土山町  |
| 久居市   | 油正醸造(株)      | 醸造業   | // | 榎 得兵エ (明治元)           | 日野町  |
|       | 榎建材店         | 建材    | 店主 | 榎 とき                  | //   |
|       | 久居商業センター     | 量販    | // | 大西和一郎                 | 信楽町  |
|       | 服地の大西        | 繊維製品  | // | //                    | //   |
|       | 寿屋           | 酒販    | // | 武田 亘泰                 | 彦根市  |
|       | 近江屋          | //    | // | 吉田きくの                 | 甲賀町  |
|       | 坂口自転車商会      | 自転車販  | // | 坂口 守吉                 | //   |
| 上野市   | 近江屋          | 帽子・傘  | // | 杉本一郎平 (大正年間)          | 信楽町  |
|       | 徳本製菓(株)      | 菓子製販  | 社長 | 徳本万治郎 (// )           | //   |
| 亀山市   | 鈴木醤油(株)      | 醤油醸造  | // | 鈴木 十平 (重平嘉永元)         | 日野町  |
|       | (有)岡電気工業     | 電工    | // | 岡 幸三郎                 | //   |
|       | 宮長金物店        | 金物販売  | 店主 | 宮西長兵エ (明治年間)          | 愛知川町 |
|       | 近江屋商店        | 醤油醸造  | // | 藤川作兵エ (// )           | //   |
|       | 近江屋製菓店       | 菓子製販  | // | 林 備夫                  | 土山町  |
| 尾鷲市   | 近江屋呉服店       | 呉服    | // | 黒内 健次                 | 甲賀町  |
|       | 京美屋 //       | //    | // | 倉田 義朗                 | //   |
| 熊野市   | 事務機ナガサカ      | 事務機文具 | // | 永阪 茂                  | 大津市  |
| 〈大阪府〉 |              |       |    |                       |      |
| 大阪市   |              |       |    |                       |      |
| 北区    |              |       |    |                       |      |
| 南森町   | 黒川乳業(株)      | 乳業    | 社長 | 黒川繁八                  |      |
| 南椿原   | (株)マルイチ      | 賃貸・展示 | // | 市川新一                  |      |
| 茶屋町   | ヤンマーディーゼル(株) | 内燃機関  | // | 山岡 淳男 (孫吉明治45)        | 湖北町  |
| 堂島浜   | 東洋紡績(株)      | 繊維工業品 | // | 河崎 邦夫 (阿部房次郎明15)      | 能登川町 |
| 中之島   | 日綿実業(株)      | 総合商社  | // | 神林 正教 (明治25・田附を合併)    |      |
| 大淀区   |              |       |    |                       |      |
| 大淀町   | 日野薬品工業(株)    | 製薬    | // | 橋田喜一郎 (本社日野)          | 日野町  |
| 都島区   |              |       |    |                       |      |

|      |           |         |     |                      |       |
|------|-----------|---------|-----|----------------------|-------|
| 毛馬町  | 浪華絹綿(株)   | 紡績      | 〃   | 西沢 勉一                | 湖東町   |
| 城東区  |           |         |     |                      |       |
| 関目町  | 平和運輸(株)   | 運送業     | 社長  | 寺田喜重                 | 近江八幡町 |
| 東区   |           |         |     |                      |       |
| 日本橋  | 三和繊維(株)   |         | 〃   | 浅見 敏弘                | 高月町   |
| 谷町   | 滝本(株)     | 学生服     | 会長  | 清水 武吉                | 新旭町   |
| 京橋   | 株百又       | 肌着寝具    | 社長  | 寺田八十二                | 栗東町   |
| 淡路町  | 近江織物(株)   | 繊維問屋    | 常務  | 杉立 昌久                | 秦荘町   |
|      | 山田印刷(株)   | 印刷      | 所長  | 山田 脩治 (大正12)         | 近江八幡市 |
|      | 伊藤萬(株)    | 繊維商社    | 役員  | 元持与平治, 田中喜之助 (明治16)  | 八日市市  |
|      | オーミケンシ(株) | 各種糸織物   | 社長  | 夏川鉄之助 (熊次郎大正6)       | 彦根市   |
| 高麗橋  | 新内外綿(株)   | 綿糸・合織   | 社長  | 稲田 清次 (阿部彦太郎明治20)    | 能登川町  |
| 今橋   | 日本生命保険(株) | 生命保険    | 〃   | 弘世 現 (助三郎明治22)       | 彦根市   |
| 安土町  | 近泉合織(株)   | 紡績      | 〃   | 中山弥左エ門 (昭和9中山弥より独立)  | 甲良町   |
|      | 株ダイケンセンイ  | 寝具・下着   | 相談役 | 市橋 重男 (昭和14)         | 水口町   |
|      | 蝶理(株)     | 繊維問屋    | 会長  | 大橋理一郎 (文化元)          | 彦根市   |
|      | 津田商店      | 〃       |     | 津田 博司                | 〃     |
|      | 東光商事(株)   | 〃       | 社長  | 光井 司郎                | 〃     |
| 唐物町  | 株北村繁商店    | 〃       | 〃   | 北村 繁蔵                | 〃     |
| 瓦町   | 旭(株)      | 化合織生地卸  | 〃   | 北川富三郎 (昭和10)         | 五箇荘町  |
|      | 東洋棉花(株)   | 総合商社    | 〃   | 香川 英史 (児玉一造大正9)      | 彦根市   |
|      | 大五(株)     | 〃       |     | 田中 健二                | 近江八幡町 |
| 北久太郎 | 伊藤忠商事(株)  | 総合商社    | 会長  | 越後 正一 (伊藤長兵エ安政5)     | 豊郷町   |
|      | 伊藤忠不動産(株) | 土地経営    | 社長  | 越後 正之                | 豊郷町   |
|      | 武田和(株)    | 子供服製卸   | 〃   | 武田 竜一 (昭和10)         |       |
| 大手   | オーミヤ(株)   | 紳士・婦人服  | 〃   | 吉川 太郎 (明治43)         | 五箇荘町  |
| 北久宝寺 | 同心商事(株)   | 繊維問屋    | 〃   | 中山 篤三                | 愛東町   |
| 博労町  | 株異矢       | 便箋・紙製品  | 〃   | 野村 武三 (昭和22)         | 彦根市   |
| 備後町  | 草野産業(株)   |         | 専務  | 中村 栄一                | 浅井町   |
|      | 小泉(株)     | 繊維問屋    | 社長  | 小泉 重助 (享保創業明治4)      | 五箇荘町  |
|      | 小泉産業(株)   | 家電製卸    | 会長  | 〃 (〃 昭和18開)          | 〃     |
|      | 小島商事(株)   |         | 〃   | 小島茂兵エ                | 能登川町  |
|      | 敷島カンバス(株) | 工業用重布   | 〃   | 高木 久新 (9代井狩弥左エ門明治30) | 近江八幡市 |
|      | 瀧定(株)     | 繊維問屋    | 社長  | 瀧 隆朗 (定助元治元)         |       |
|      | 西沢(株)     | 繊維・機械輸出 | 〃   | 西沢恭三郎 (八三郎大正4)       | 湖東町   |



|      |          |         |    |                   |       |
|------|----------|---------|----|-------------------|-------|
|      | ㈱山口玄     | 寝具・服    | 〃  | 山口 祥三 (明治15)      | 近江八幡市 |
| 本町   | 稲西㈱      | 呉服卸     | 〃  | 西村敬一郎 (文化10共同開店)  | 八日市市  |
|      | ㈱大阪西川    | 寝具卸     | 〃  | 西川 五郎 (昭和16)      | 近江八幡市 |
|      | 外定㈱      | 繊維問屋    | 〃  | 田中与三郎 (明治20)      | 愛知川町  |
|      | 藤井㈱      | 毛糸      | 会長 | 藤井繁次郎 (善助文化12)    | 五箇荘町  |
|      | 丸紅㈱      | 総合商社    | 社長 | 松尾泰一郎 (伊藤長安政5)    | 豊郷町   |
|      | 村田長㈱     | 繊維問屋    | 〃  | 村田長兵エ (明治18)      |       |
| 南久太郎 | 又一洋行㈱    | 婦人衣料卸   | 〃  | 伊藤 弥 (正光大正10独立)   | 〃     |
| 南久宝寺 | ㈱大黒商事    | 洋傘材料    | 〃  | 黒川 留一 (昭和25)      | 甲賀町   |
| 船場   | マネキンエース㈱ | 人形製販    | }  | 又一の関連会社 (昭和17分離)  |       |
|      | 伊藤衣料㈱    | 製造      |    |                   |       |
|      | 又ーグンゼ販売㈱ | グンゼ靴下   |    |                   |       |
| 南本町  | 大三織物㈱    | 繊維問屋    |    | 北川 孝一 (昭和24)      | 多賀町   |
|      | 綾羽工業㈱    | タイヤコード他 | 社長 | 河本嘉久蔵 (昭和21)      | 高島町   |
| 南区   |          |         |    |                   |       |
| 心斎橋  | ㈱大丸      | 百貨店     | 〃  | 井狩弥治郎 (10代弥左エ門の子) | 近江八幡市 |
| 塩町   | 山下萬㈱     | 服地・子供服  | 〃  | 山下 正己 (昭和2)       | 甲賀町   |
| 天王寺区 |          |         |    |                   |       |
| 空堀町  | ㈱安井商店    | 〃       | 〃  | 安井新七              | 蒲生町   |
| 住吉区  |          |         |    |                   |       |
| 桑津町  | 伊藤衣料㈱    |         | 常務 | 中村徳三郎             | 五箇荘町  |
| 西区   |          |         |    |                   |       |
| 新町通  | ㈱忠兵衛     | そばぼうろ   | 社長 | 北井勇三郎 (昭和26)      | 坂本町   |
| 福島区  |          |         |    |                   |       |
| 海老江  | キリンメリヤス㈱ | メリヤス製販  | 〃  | 水田久三 (昭和2)        | 草津市   |
| 下福島  | ㈱大水      | 食品卸     | 〃  | 木村 寅一 (大正5)       | 〃     |
| 住之江区 |          |         |    |                   |       |
| 平林   | 津田産業㈱    | 木材・合板卸  | 会長 | 津田良太郎 (大正9)       | 彦根市   |
|      | 高島屋      | 百貨店     | 〃  | 飯田 慶三 (天保2)       | 今津町   |
| 松原市  | 村岸産業㈱    | ブラシ製造   | 社長 | 村岸良之助 (弥惣兵エ)      | 豊郷町   |
| 箕面市  | ㈱日野屋     |         | 会長 | 北岡忠次郎             | 日野町   |
|      | 日比㈱      |         | 社長 | 日比 益蔵             | 彦根市   |
| 貝塚市  | ㈱近江屋化粧品  | 化粧品小売   | }  | 辻 次郎              | 〃     |
|      | ㈱山大商会    | 〃 卸     |    |                   |       |
| 泉佐野市 | 内堀タオル㈱   | タオル製造   | 社長 | 内堀弥四郎 (明治年間)      | 多賀町   |
|      | ㈱村岸タオル工場 | 〃       | 〃  | 村岸久太郎             | 豊郷町   |
|      | ㈱田附豊     | 〃       | 〃  | 田附豊太郎 (治郎)        | 能登川町  |

|       |               |        |    |                 |      |
|-------|---------------|--------|----|-----------------|------|
|       | 山一タオル㈱        | 〃      | 〃  | 田附太一郎（大正1）      | 〃    |
|       | 中村ミシン電気<br>商会 | ミシン    | 〃  | 中村 順一           | 多賀町  |
|       | 五光精機㈱         | ミシン    | 社長 | 木村 庄一           | 長浜市  |
| 〈京都市〉 |               |        |    |                 |      |
| 下京区   |               |        |    |                 |      |
| 室町    | ㈱市原亀之助商店      | 繊維問屋   | 社長 | 市原雅夫（大正10）      | 新旭町  |
| 東堀川   | ㈱今井静五商店       | 畳・敷物   | 〃  | 今井 静吾           | 野洲町  |
| 烏丸    | 岡秀㈱           | 寝具製販   | 〃  | 岡秀 有喜           | 蒲生町  |
| 室町    | ㈱大橋           | 繊維問屋   | 〃  | 大橋弥一郎           | 彦根市  |
| 河原町   | ㈱京都西川         | 寝具製販   | 〃  | 吉川四郎（永禄9）       | 甲南町  |
| 室町    | 小杉商事㈱         | 〃      | 〃  | 小杉 源蔵（大正5）      | 秦荘町  |
|       | 三昌㈱           | 繊維問屋   | 会長 | 小川 公一           |      |
| 烏丸    | ㈱新装大橋         | 〃      | 社長 | 大橋 義一           |      |
| 五条    | 公成建設㈱         | 建築     | 〃  | 絹川 浩            |      |
|       | 星和電機㈱         | 電工     | 〃  | 増山義三郎           |      |
| 西大路   | 第一綿業㈱         | 寝具・呉服  | 〃  | 川島 康裕           | 八日市市 |
| 新町    | ㈱出路商事         | 呉服     | 〃  | 出路 良吉           | 能登川町 |
| 四条    | 外市㈱           | 繊維問屋   | 会長 | 横山源吉（市郎兵衛明治10）  | 五箇荘町 |
| 室町    | ㈱丸十小泉         | 京染呉服   | 社長 | 小泉 重助（新助丸新商店明8） | 〃    |
|       | 豆田商事㈱         | 〃      | 〃  | 豆田 弘次           | 蒲生町  |
|       | 森野㈱           | 〃      | 〃  | 森野 忠蔵           | 湖東町  |
| 堀川    | ㈱吉萬           | 〃      | 〃  | 吉川萬次郎           | 彦根市  |
| 左京区   |               |        |    |                 |      |
| 岡崎    | 元禄畳           | 畳      |    | （元禄3）           |      |
| 南区    |               |        |    |                 |      |
| 上鳥羽   | ㈱金沢土建         | 土木建築   | 〃  | 金沢 徳重           | 彦根市  |
| 吉祥院   | 梶原紙工          | 包装品    |    | 梶原 末蔵           | 野洲町  |
| 西大路   | ㈱ワコール         | 婦人洋装下着 | 〃  | 塚本 幸一           | （京都） |
| 伏見区   |               |        |    |                 |      |
| 深草    | 旭建鉄           | 型枠     | 〃  | 堺 元義            | 米原町  |
| 上京区   |               |        |    |                 |      |
| 笹屋町   | 大光絹染㈱         | 染色     | 〃  | 稲本 唯七           | 五箇荘町 |
| 上立売   | 丸忠商店          | 組紐洋房   | 〃  | 吉岡 敬治           | 湖東町  |
| 寺ノ内   | ㈱八田塗装店        | 塗・内装   | 〃  | 八田信太郎           | 八日市市 |
| 猪熊    | ㈱三星           | 京呉服    | 〃  | 鋒山吉太郎           |      |
| 中京区   |               |        |    |                 |      |
| 三条    | ㈱星久           | 繊維問屋   | 〃  | 松居久左エ門（享保年間）    | 五箇荘町 |
| 烏丸    | 藤和㈱           | 〃      | 〃  | 藤野 誠吾           | 日野町  |

|       |               |        |      |                  |       |
|-------|---------------|--------|------|------------------|-------|
|       | 富士忠           | ㈱和装小物  | 〃    | 山口忠次郎            |       |
| 東洞院   | 外与㈱           | 繊維問屋   | 〃    | 外村与左エ門（元禄13）     | 五箇荘町  |
| 室町    | 三建㈱           | 寝具製販   | 〃    | 浅井 清一            |       |
|       | 江一㈱           | 呉服糸商   | 〃    | 樋口 松男（本社長浜）      | 長浜市   |
| 西洞院   | ㈱川口絹織         | 京呉服白生地 | 〃    | 川口 恒生            |       |
| 新町    | 兼松㈱           | 〃      | 社長   | 山口吉之助            |       |
| 山科区   |               |        |      |                  |       |
| 竹鼻    | 吉村紡績㈱         | 紡績     | 〃    | 吉村孫三郎            | 浅井町   |
| 右京区   |               |        |      |                  |       |
| 西院    | ㈱大鳥居工業        | 設備施工   | 〃    | 大鳥居満也            | 彦根市   |
|       | 近畿土地建設㈱       | 建築     | 〃    | 堀下 政幸            |       |
|       | 科研化学㈱         | 化学     | 会長   | 藪田貞次郎            | 大津市   |
| 〈兵庫県〉 |               |        |      |                  |       |
| 神戸市   | 大橋貿易㈱         | 食品輸入   | 社長   | 大橋 政一（江戸期）       | 近江八幡市 |
|       | 太田酒造㈱         | 醸造業    | 会長   | 太田 敬三（明治年間本社草津市） | 草津市   |
|       | 小泉製麻㈱         | 黄麻紡績   | 社長   | 小泉 徳一（啓三明治25）    | 五箇荘町  |
|       | 野沢石綿スレー<br>ト㈱ | 石綿板    | 〃    | 野沢幸三郎（大正2）       | 日野町   |
| 赤穂市   | ㈱対馬館          | 旅館     | 〃    | 成世重太郎            | 長浜市   |
| 〈島根県〉 |               |        |      |                  |       |
| 松江市   | ㈱山海           | 食品・電動機 | 社長   | 高田 三郎            | 草津市   |
| 〈岡山県〉 |               |        |      |                  |       |
| 岡山市   | ㈱山陽新聞社        | 新聞発行   | 社長   | 竹内 俊三            | 伴谷    |
|       | ㈱岩根呉服店        | 呉服商    | 〃    | 岩根 幹三            | 山東町   |
|       | ㈱小林美装店        | 化粧品    | 〃    | 小林大二郎            |       |
|       | ㈱三栄鉄工所        | 鉄工業    | 〃    | 梅村 源治            | 野洲町   |
|       | ㈱琴浦紡績         | 混紡換糸   | 〃    | 石田 良一            |       |
|       | 田川㈱           | 原布卸    | 〃    | 田川 源弥            | 愛知川町  |
| 〈広島県〉 |               |        |      |                  |       |
| 竹原市   | 竹原工業㈱         | 木材     | 社長   | 椎野 正道            |       |
|       | 津田木材工業㈱       | 合板製造   | 〃    | 津田良太郎            | 彦根市   |
| 〈香川県〉 |               |        |      |                  |       |
| 高松市   | トキワふとん㈱       | 寝具     | 社長   | 中村孝太郎            | 大津市   |
|       | ㈱古山洋服店        | 紳士服    | 〃    | 古山 三郎            | 長浜市   |
|       | すずや㈱          | 仏壇仏具   | 〃    | 上林道太郎            | 愛知川町  |
| 〈福岡県〉 |               |        |      |                  |       |
| 福岡市   | 津田産業㈱         | 繊維品    | 社長   | 津田 鶴治            | 彦根市   |
| 大牟田市  | ㈱松屋           | 百貨店    | 〃 2代 | 宮村 吉蔵（吉蔵明治44）    | 豊郷町   |

## 〈鹿児島県〉

|      |          |      |    |       |     |
|------|----------|------|----|-------|-----|
| 阿久根市 | (旬)上田金物店 | 金物建材 | 社長 | 土田 伝造 | 長浜市 |
|      | //       | //   |    | 土田音次郎 | //  |

## 〈大分県〉

|     |           |     |    |              |      |
|-----|-----------|-----|----|--------------|------|
| 竹田市 | (饒)岡本屋呉服店 | 衣料品 | 社長 | 川島 悌三 (明治年間) | 五箇荘町 |
|-----|-----------|-----|----|--------------|------|

## 〈秋田県〉

|     |           |        |    |              |     |
|-----|-----------|--------|----|--------------|-----|
| 秋田市 | (饒)近江屋呉服店 | 呉服小売   | 社長 | 近江 礼三 (明治10) |     |
|     | 秋田電装(饒)   | 小型モーター | // | 高田 三郎 (本社草津) | 草津市 |

## 〈山形県〉

|     |          |         |        |              |     |
|-----|----------|---------|--------|--------------|-----|
| 酒田市 | 伊庭屋薬品(饒) | 薬・ベビー用品 | // 14代 | 伊庭安右エ門 (江戸期) | 日野町 |
|-----|----------|---------|--------|--------------|-----|

## 〈青森県〉

|     |               |        |       |                |      |
|-----|---------------|--------|-------|----------------|------|
| 八戸市 | (旬)金子安兵エ商店    | 薬品卸小売  | // 6代 | 金子 善郎 (安兵エ安政4) | 響庭   |
|     | (旬)男山商事       | 酒卸小売   | // 7代 | 駒井庄三郎 (安永年間)   | 北舟木  |
|     | (旬)男山ビル       | 貸ビル    |       |                |      |
|     | (旬)丸一中村商店     | 食料品    | //    | 中村 清六          |      |
|     | (饒)せきのドラッグストア | 医薬・カメラ | // 5代 | 岡野 恵二 (江戸中期)   | 能登川町 |

## 〈岩手県〉

|     |            |         |        |                   |     |
|-----|------------|---------|--------|-------------------|-----|
| 盛岡市 | (饒)村井風月堂   | 菓子・弁当   | // 9代  | 村井末次郎             | 高島町 |
|     | (饒)木津屋本店   | 文房具ほか   | //     | 池野藤兵衛 (近文系)       | //  |
|     | 近文商店       | 糸・毛糸    | //     | 村井 文治 (近勘の分家)     | //  |
|     | 村井カメラ店     | カメラ・材料  | //     | 村井 忠 (多賀屋の分家)     | //  |
|     | (饒)井筒屋、加賀野 | 土地・不動産  | // 5代  | 村井 莊平 (4代弥兵エ開店)   | //  |
|     | (饒)村源商店    | 薬・写真材料  | 会長12代  | 村井 源一 (大塚屋の分家安政4) | //  |
|     | 村研薬品(饒)    | 薬・化粧品   | 社長13代  | 村井研一郎 (源一の子昭和)    | //  |
|     | 村治洋品店      | 紳士服     | //     | 村井弥兵エ (村定の分家)     | //  |
|     | 村定楽器店      | 楽器・レコード | // 4代  | 村井 啓悦 (伯耆屋の分家)    | //  |
|     | (饒)鍵屋      | 酒・食品    | // 初代  | 村井 定助 (9代源三の弟)    | //  |
|     | (饒)阿さ開瑞鳳   | 酒造業     | // 10代 | 村井良一郎 (源三明治)      | //  |
|     | 近江屋別館      | 旅館      | 社長     | 植本 一夫             | 湖東町 |

## 〈北海道〉

|    |            |           |       |             |     |
|----|------------|-----------|-------|-------------|-----|
| 網走 | (旬)マस्या商店 | 書籍・文具     | 社長    | 高田 聡子       |     |
|    | (旬)フシヤ書店   | //        | //    | 田中 良一       |     |
|    | 久田紙店       | //        |       | 久田 金利       |     |
|    | (饒)ウメヤ     | 洋品・スキー用品  | //    | 棧敷為三郎       | 彦根市 |
|    | 山田呉服店      | 呉服洋品      | //    | 山田喜太郎       |     |
|    | (饒)林屋商店    | 燃料・建材     | // 3代 | 林 幸夫 (大正年間) | 山東町 |
|    | 松宮写真材料店    | カメラ・D P E | //    | 松宮与治郎       |     |

|     |            |         |                     |       |
|-----|------------|---------|---------------------|-------|
|     | (有)ふじや楽器   | 楽器・レコード | 田中 良一               |       |
| 名寄市 | (株)丸山・山田   | 百貨店     | 山田 俊子 (為次郎明治39)     | 豊郷町   |
| 栗山町 | (株)山田呉服店   | 衣料一般    | 山田 米蔵 (久吉明治33)      | 〃     |
| 旭川市 | 谷松商店(株)    | 菓子      | 宮川 重治 (谷松智次郎)       | 〃     |
|     | 宮川本店       | 仏壇仏具    | 宮川 重治               | 〃     |
|     | 中島燃料店      | 燃料      | 中島 澄夫               | 湖北町   |
|     | (株)脇坂仏具店   | 仏壇・仏具   | 会長 脇坂 為蔵            | 長浜市   |
|     | 上西精肉店(株)   | 食肉      | 社長 上西 光隆 (中次郎)      | 甲西町   |
|     | 斎藤木材(株)    | 木材      | 〃 斎藤 一郎 (弥三郎明治24)   | 大津市   |
|     | (株)青山ビル    | 貸ビル     | 〃 青山 繁蔵 (与惣吉)       | 豊郷町   |
|     | 青山塗装       | 塗装      |                     |       |
|     | 上西金物店(株)   | 金物      | 上西 鉄男 (栄一郎)         | 甲西町   |
|     | グリーン石油(株)  | 石油      | 〃 瀬古 一治 (太郎助明治31)   | 甲賀町   |
|     | 上原商店(株)    | 家具      | 〃 上原信一郎 (弥蔵)        | 大溝    |
| 留萌市 | (有)豊年屋商店   | 食品卸小売   | 〃 渡辺 宗吉             |       |
|     | (株)村川酒店    | 酒販      | 〃 村井松治郎 (大正4)       | 秦荘町   |
|     | (株)マルゲン平井  | 洋品雑貨    | 〃 平井惣一郎 (昭和7)       | 近江八幡市 |
|     | (有)万亀屋商店   | 食品・米    | 〃 奥村 光弘 (大正14)      | 日野町   |
|     | (株)フルノハイヤー | ハイヤー業   | 〃 古野 徳松 (明治35)      |       |
|     | (株)東商店     | 薬品卸小売   | 〃 2代 東 只一 (善之助明治35) | 安土町   |
| 倶知安 | (有)日高橋商店   | 呉服店     | 〃 2代                | 甲良町   |
|     | 先山薬局       | 医薬      | 〃 2代                | 彦根市   |
|     | 一円商店       | 酒・食品    | 〃 2代                | 〃     |
|     | 福島新太郎商店    | 〃       | 〃 2代                |       |
| 紋別市 | 土田木材(株)    | 製材      | 社長 土田己之助 (明治43)     | 多賀町   |
|     | 紋別造船(株)    | 造船      |                     |       |
|     | 田中醸造店      | 醸造業     | 田中寛次郎 (明治28)        | 〃     |
| 小樽市 | 石橋彦三郎      | 味噌・醤油   | 石橋彦三郎 (明治6)         | 彦根市   |
|     | 近江屋小堀鶴吉    | 呉服・衣料   | 小堀 鶴吉 (明治22)        | 〃     |
| 釧路市 | 出口兵五郎本店    | 海産物・雑貨  | 出口 鉄夫 (兵五郎明治21)     | 〃     |